

|  |  |       |      |          |          |
|--|--|-------|------|----------|----------|
| 科目名  | 小児看護論演習  |       |      | 科目コード    | DN131665 |
| 評価責任者  | 青野 広子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください   |       |      | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法   | 演習   | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> </ul> |       |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |  |       |      |          |          |
| <p>この科目では、小児看護学概論、小児看護論で学んだ子どもと家族への医療・看護・福祉に関する知識が必要となる。その知識を踏まえ、疾患を有する子どもの事例を通して健康障害をもつ子どもの成長発達評価、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの枠組みを理解し、成長発達や健康状態をアセスメントする方法を習得すること、必要な援助技術・診療助技術習得することを目指す。また、家族や養育環境のアセスメントを実施し、必要な看護介入について考え、最適な生活（well-being）を目指す援助方法について検討することができる能力を習得する。</p> <p>本科目の学修成果は、筆記試験、課題レポート、授業態度・積極性で確認する。</p> <p>実務経験を生かした教育内容<br/>大学附属病院等での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療助技術に関する知識・技術を、子どもの発達に応じて、臨床で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。</p>  |  |       |      |          |          |
| <b>到達目標</b>  |  |       |      |          |          |
| <p>1.全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの発達段階に応じた安全を確保する看護実践について説明することができる。</li> <li>2) 子どもの全身状態を把握するための観察とフィジカルアセスメントの方法について説明することができる。</li> <li>3) 子どもと家族の看護アセスメントを行う視点について説明することができる。</li> <li>4) 子どもの発達段階に応じた口腔管理についての支援の視点を分類し、説明することができる。</li> </ol> <p>2.態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各授業に関連する予習を行ったうえで授業に参加する。</li> <li>2) ディスカッションでは積極的な進行や発言する姿勢を見せることができる。</li> <li>3) 修得が必要な看護技術について、自己練習を積み、修得に向けた自己研鑽を行うことができる。</li> </ol> <p>3.スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床場面を想定した中で、子どもへのプレパレーションを実施することができる。</li> <li>2) 提示された事例に対し、自分の考え・判断を基に看護実践の方向性を見出し、一部実施することができる。</li> </ol> |  |       |      |          |          |
| <b>準備学修</b>  |  |       |      |          |          |
| <p>小児、家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。</p>  |  |       |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |  |       |      |          |          |
| <p>筆記試験（50点）、課題に対する回答内容（40点）、授業態度・積極性（10点）を総合して評価する。提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。</p>   |  |       |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |  |       |      |          |          |
| <p>課題は、主に疾病を有する子どもと家族に対する看護過程に関連する記録となる。提出を求めた課題に対しては、評価後に返却し、復習、今後の学習に生かすことができるよう解説を行う。</p>   |  |       |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |  |       |      |          |          |
| <p>教科書：奈良間美保他 「系統看護学講座 小児臨床看護概論 小児看護学1」医学書院<br/>奈良間美保他 「系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2」医学書院</p> <p>参考書：中野綾美他 著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学（1）小児の発達と看護』メディカ出版<br/>中野綾美他 著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学（2）小児看護技術』メディカ出版<br/>中野綾美他 著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学（3）小児の疾患と看護』メディカ出版<br/>筒井真優美監修 「パーフェクト臨床実習ガイド小児看護」 照林社<br/>山元恵子監修 「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ</p>  |  |       |      |          |          |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名     | 学修内容   |
|----|-----------|--|
| 1  | 飯野英親、青野広子 | ユニット 1-1 講義・準備学習<br>小児看護アセスメント、看護過程オリエンテーション<br>健康障害をもつ子どもの家族に関する看護アセスメントについて学ぶ。事例を基に、小児と家族に対する情報収集の視点について学ぶ。  |
| 2  | 飯野英親、青野広子 | ユニット 1-2 講義・調査学習<br>小児における看護過程 事例：小児がん<br>＜事例患児の全体像把握＞<br>ゴードンの機能的健康パターンと事例の全体像について学ぶ。事例の全体像を関連図にまとめ、整理する方法を学ぶ。  |
| 3  | 飯野英親、青野広子 | ユニット1-3 講義・調査学習<br>小児における看護過程 事例：小児がん<br>＜事例患児の全体像把握、看護問題の抽出と看護計画の立案＞<br>事例の全体像を関連図にまとめ、整理する方法を学ぶ。事例の健康上の看護問題を抽出し看護計画を立案する。                              |
| 4  | 飯野英親、青野広子 | ユニット1-4 講義・グループワーク<br>小児における看護過程 事例：小児がん<br>＜看護問題の抽出と看護計画の立案＞<br>事例患児の健康上の問題と看護計画について学ぶ。<br>事例患児の健康上の問題に関する看護計画を抽出し、看護計画を立案する。                           |
| 5  | 飯野英親、青野広子 | ユニット1-5 プレゼンテーション・ディスカッション<br>小児における看護過程 事例：小児がん<br>＜事例患児の全体像・看護問題・看護計画の発表、評価、修正＞<br>事例患児の全体像からの看護問題、看護計画についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う。自己の看護計画を評価し、修正を行う。    |
| 6  | 飯野英親、青野広子 | ユニット2-1 講義・グループワーク<br>子どもに対する危険予知・医療安全・感染対策<br>健康な子ども、健康障害をもつ子どもについて、発達段階を踏まえた子どもの看護を行う上での危険予知について学ぶ。子どもの看護を行う際に起こりやすい医療事故について学ぶ。小児病棟、保育園における感染対策について学ぶ。 |
| 7  | 飯野英親、青野広子 | ユニット2-2 講義・グループワーク<br>子どもに対する危険予知・医療安全・感染対策<br>健康な子ども、健康障害をもつ子どもについて、発達段階を踏まえた子どもの看護を行う上での危険予知について学ぶ。子どもの視野の狭さを体験し、具体的な事故予防策を検討する。                       |
| 8  | 飯野英親、青野広子 | ユニット3-1 講義・調査学習<br>小児看護技術（フィジカルアセスメント）<br>小児の特徴を踏まえた看護技術（フィジカルアセスメント、プレパレーション）について学ぶ。子どもの全身状態の観察を実施する方法について学ぶ。   |
| 9  | 飯野英親、青野広子 | ユニット3-2 ロールプレイ<br>小児看護技術（フィジカルアセスメント）<br>小児の特徴を踏まえた、フィジカルアセスメント、プレパレーションのロールプレイを通して、子どもの全身状態の観察方法について学ぶ。また、検討を通して自己の実践を評価する。                             |
| 10 | 飯野英親、青野広子 | ユニット4 講義・グループワーク<br>小児看護技術（採血、輸液管理、骨髄穿刺、腰椎穿刺、与薬）<br>小児看護における採血、輸液管理について学ぶ。<br>小児の骨髄穿刺、腰椎穿刺時の看護について学ぶ。<br>小児の与薬の技術について学ぶ。                                 |
| 11 | 飯野英親、青野広子 | ユニット4 講義・グループワーク<br>小児看護技術（採血、輸液管理、骨髄穿刺、腰椎穿刺、与薬）<br>小児看護における採血、輸液管理について学ぶ。<br>小児の骨髄穿刺、腰椎穿刺時の看護について学ぶ。<br>小児の与薬の技術について学ぶ。                                 |
| 12 | 飯野英親、青野広子 | ユニット5 調査学習<br>小児看護実践の評価<br>事例の看護問題と看護計画について修正する。<br>自己の実践を踏まえた、患児の健康状態の評価方法について学ぶ。   |
| 13 | 飯野英親、青野広子 | ユニット6-1 講義・調査学習<br>子どもの口腔機能のアセスメントとケア<br>健康な子どもの口腔内発達について学ぶ。<br>健康な子どもの口腔内発達、発達段階に応じたケア物品について学ぶ。<br>健康な子どもの口腔衛生管理を支援する方法について学ぶ。                          |
| 14 | 飯野英親、青野広子 | ユニット6-2 双方向型授業<br>子どもの口腔機能のアセスメントとケア<br>健康な子どもの口腔衛生管理を支援する方法について口腔ケア計画をもとに実践する。<br>検討を通して自己の実践を評価し課題を抽出する。口腔ケア計画を修正する。                                   |
| 15 | 飯野英親、青野広子 | ユニット6-3 双方向型授業<br>子どもの口腔機能のアセスメントとケア<br>健康な子どもの口腔衛生管理を支援する方法について口腔ケア計画をもとに実践する。<br>検討を通して自己の実践を評価し課題を抽出する。口腔ケア計画を修正する。                                   |

《専門分野 母性看護学》

|   |   |       |      |          |          |
|---|---|-------|------|----------|----------|
| 科目名   | 母性看護論演習   |       |      | 科目コード    | DN131685 |
| 評価責任者   | 中西 真美子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください   |       |      | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法  | 演習  | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul> |       |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |   |       |      |          |          |
| <p>3年生前期に位置づける本科目は、既習の病態疾病論、母性看護学概論、母性看護論に基づきアセスメントおよび母性看護に関する技術を看護実践につなげる。</p> <p>妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の看護を実践するために必要な技術を習得する。また、ウェルネス診断を立案するために紙上事例を活用して情報の整理、アセスメント、計画立案を実施する。立案した計画はシミュレーションを行い、学生の思考を深め、実践力を育成することを目的とする。</p> <p>本科目の担当教員は、母性看護学分野において大学附属病院・国立病院機構・総合病院での助産師としての職務経験、開業助産師として産後ケアや育児支援、行政での母子保健事業経験、中学校等への性教育の経験を有している。母性看護の対象である妊産褥婦および新生児とその家族への看護や子育て世代包括支援による切れ目のない支援と多職種連携、特殊な状況下にある対象の看護について実務経験を通して得た知見についても教授し、母性看護における多様な対象者の個性を踏まえた最適な生活 (well-being) について考察でき、実践するための基盤となる知識を教授する。</p> |   |       |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |   |       |      |          |          |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦体験などを通して、妊娠による心身の変化と日常生活に及ぼす影響、看護者としてのケアや支援を考えることができる。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護に必要な技術を習得することができる。</li> <li>3. 紙上事例を通して、計画立案までの母性看護の看護過程の展開ができる。</li> <li>4. 立案した看護計画をふまえて母性看護の基本的看護技術を実践し、その方法について説明・実践することができる。</li> </ol>   |   |       |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |   |       |      |          |          |
| <p>病態疾病論、母性看護学概論、母性看護論で課題学習したポートフォリオやレポート、配布資料等を再度確認しておくこと。</p> <p>演習前に、提示された課題の実施や教科書の該当演習技術のメディカARや指定された動画教材から技術の方法について閲覧しておくこと。</p> <p>予習・復習に必要な時間は、全体で50時間とする。</p>  |   |       |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |   |       |      |          |          |
| <p>実技試験(技術チェック)30%、準備学修課題10%、課題レポート(看護過程の展開40%、チームでの口腔衛生の保健指導案立案10%)、授業の参加状況10%</p> <p>授業の参加状況(チームでのディスカッションへの参加態度、発表、準備学修課題の聴講後の追加部分)、課題レポート提出(事後学修課題)状況からも総合的に評価する。</p>   |   |       |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |   |       |      |          |          |
| <p>課題として出す妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の看護過程の展開は、根拠を踏まえて期日までに書きあげること。これを用いて解説をし、その後のシミュレーションを行う。</p> <p>看護過程の展開や保健指導案については修正等も含めてチェックし、個別にコメントを返却することにより指導する。コメント部の修正は実習前の課題とする。</p>  |   |       |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |   |       |      |          |          |
| <p>教科書：小林康江他 ナーシンググラフィカ 母性看護学 母性看護の実践 第2版 メディカ出版<br/>         荒木奈緒他 ナーシンググラフィカ 母性看護学 母性看護技術 第6版 メディカ出版</p> <p>参考書：太田操 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版株式会社<br/>         医療情報科学研究所 病気がみえるvol.10 産科 第4版 メディックメディア<br/>         武谷雄二他 プリンシプル産科婦人科学2 産科編 第3版 メジカルビュー社</p>   |   |       |      |          |          |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名         | 学修内容  |
|----|---------------|---|
| 1  | 田出美紀          | ガイダンス<br>母性看護における看護過程の展開方法<br>1)ウェルネスによるマタニティサイクルの看護過程<br>2)ウェルネス志向による看護診断の立案方法                   |
| 2  | 中西真美子<br>田出美紀 | 妊娠期演習<br>1)妊婦体験(妊婦ジャケット装着による日常生活動作体験)<br>2)妊娠期に必要な技術のスキルトレーニング(レオポルド触診法、胎児心音聴取、NST装着と所見判読)        |
| 3  | 田出美紀<br>中西真美子 | 妊娠期演習<br>3)切迫早産妊婦の観察とアセスメント(紙上事例の展開)  |
| 4  | 田出美紀<br>中西真美子 | 妊娠期演習<br>4)切迫早産妊婦の観察とアセスメント(シミュレーション)   |
| 5  | 中西真美子<br>田出美紀 | 分娩期演習<br>1)前期破水後に陣痛開始した産婦と胎児の観察とアセスメント(紙上事例の展開)<br>2)分娩第1期(活動期)の看護計画立案                            |
| 6  | 中西真美子<br>田出美紀 | 分娩期演習<br>3)分娩第1期の産婦と胎児の観察と安全・安楽な分娩へのケア(シミュレーション)  |
| 7  | 中西真美子<br>田出美紀 | 新生児期演習<br>1)新生児期に必要な技術のスキルトレーニング(バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、計測)  |
| 8  | 中西真美子<br>田出美紀 | 新生児期演習<br>2)抱っこ、おむつ交換、ポジショニングとラッチオン<br>3)更衣、沐浴技術  |
| 9  | 中西真美子<br>田出美紀 | 産褥期演習<br>1)産褥期に必要な技術のスキルトレーニング(子宮底長測定、子宮の硬度、外陰部・悪露の観察、乳房の観察)<br>2)帝王切開後の観察(術後の褥婦の子宮復古の観察、全身状態の観察) |
| 10 | 田出美紀<br>中西真美子 | 産褥期演習<br>2)褥婦の観察とアセスメント(紙上事例の展開、シミュレーション)   |
| 11 | 中西真美子<br>田出美紀 | 新生児期演習<br>4)新生児の看護技術チェック<br>(1)バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント<br>(2)衣類の着脱、計測<br>(3)沐浴                      |
| 12 | 中西真美子<br>田出美紀 | 新生児期演習<br>4)新生児の看護技術チェック<br>(1)バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント<br>(2)衣類の着脱、計測<br>(3)沐浴                      |
| 13 | 中西真美子<br>田出美紀 | 新生児期演習<br>5)新生児の観察とアセスメント(紙上事例の展開)  |
| 14 | 田出美紀<br>中西真美子 | 産褥期演習・新生児期演習<br>3)褥婦への乳房の観察と授乳支援(紙上事例の展開、シミュレーション)  |
| 15 | 田出美紀<br>中西真美子 | 周産期の保健指導<br>1)周産期の口腔衛生と保健指導(紙上事例のアセスメントと指導案作成)  |

《専門分野 成人・高齢者看護学》

|   |  |       |      |          |          |
|---|--|-------|------|----------|----------|
| 科目名   | 成人・高齢者看護論演習  |       |      | 科目コード    | DN131740 |
| 評価責任者   | 岩本 利恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください   |       |      | 授業回数     | 30回      |
| 授業方法  | 演習   | 単位・必選 | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   | -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。<br>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。<br>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |       |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |  |       |      |          |          |
| 本科目では、対象者への健康障害の特徴に応じた看護過程の展開方法を学ぶとともに、対象者の健康障害に応じたフィジカルアセスメント技術を理解し、健康回復の支援に必要な援助技術を修得することを目指す。クリティカル期、急性期、回復期、慢性期、緩和期、終末期とそれぞれでの対象者およびその家族に対するアセスメントする能力、その支援をする技術、看護について修得することを目指す。  |  |       |      |          |          |
| この科目は、毎回の事前学習課題を実施する。また事前学習を活用しながら、演習を実施する。<br>この科目では、グループディスカッション、シミュレーションがあり、積極的な学習が求められる。<br>(実務経験を生かした教育内容)<br>公立病院や大学付属病院における成人看護期(急性期・回復期・慢性期・終末期)の経験、社会貢献、研究活動等での成人期の対象者および家族との関わりから、急性期においては疾患の症状、および治療による侵襲からの回復・リハビリテーション、を通してよりよいwell-beingを目指した支援及び退院指導について教育する。慢性期においては疾病とともに生きる対象者および家族の最適な暮らし(well-being)を目指した看護の方法、実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のための患者教育、指導についても教育する。  |  |       |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |  |       |      |          |          |
| 1. 知識<br>1) 手術を受ける患者の術前看護、術後患者の療養環境、身体モニタリング、術直後のアセスメント、術後離床の支援の具体的方法について説明できる。<br>2) 肝不全、呼吸不全、心不全、糖尿病患者の情報を収集し、アセスメント、患者教育について説明できる。<br>3) 簡易血糖測定、自己血糖測定の目的、患者教育について説明できる。<br>2. 態度<br>1) 自ら積極的に学習し、グループディスカッションに積極的に参加、コミュニケーションをとり協働する。<br>3. 技術<br>1) 急性期、慢性期にある対象者への健康障害の特徴に応じた看護過程の展開ができる。<br>2) 術後患者の療養環境、身体モニタリング、術直後のアセスメント、術後離床の具体的方法が実施できる。<br>3) CPRを実施することができる。<br>4) 簡易血糖測定、自己血糖測定が安全、安楽に実施できる。<br>5) 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援、退院指導、口腔アセスメント、口腔ケアが実施できる。<br>6) コミュニケーション障害のある対象者のコミュニケーションが実施できる。 |  |       |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |  |       |      |          |          |
| 毎回、事例を活用した事前レポート課題を課すため、事前学習をして講義、グループディスカッションに約60分/週を費やすこと。また講義で実施した小テスト、配布資料はポートフォリオとして整理すること。  |  |       |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |  |       |      |          |          |
| 筆記試験60%、レポート(事前学習課題、看護過程)40%とする。事前学習課題は、A~Dの5段階評価とする。看護過程は、評価表を基に評価する。  |  |       |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |  |       |      |          |          |
| 事前学習課題に対しては、個別の評価を実施し、コメントを行う。演習での技術習得については、その都度教員からの指導を実施する。修得が不十分な技術に対しては、反復してトレーニングができるように調整する。  |  |       |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |  |       |      |          |          |
| 【教科書】<br>『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』メディックメディア<br>『看護学テキストシリーズNice 成人看護学 成人看護技術』南江堂<br>【参考書】<br>川島みどり 監「完全版 ビジュアル基礎看護技術ガイド」照林社<br>本郷久美子 監訳「基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版」医学書院   |  |       |      |          |          |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名          | 学修内容  |
|----|----------------|---|
| 1  | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット1・慢性疾患における看護過程 事例（糖尿病）<br>1. 成人期の慢性期・終末期の看護過程の学習方法とアセスメントが理解できる。  |
| 2  | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット2・慢性期・終末期におけるコミュニケーション技術<br>1. コミュニケーション障害のある対象者のコミュニケーションが実施できる。   |
| 3  | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（乳がん）<br>1. グループ学習を通して乳がん患者に対する意思決定支援について学ぶ。   |
| 4  | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット4・急性期における看護過程<br>1. 演習スケジュール、および看護過程展開方法を理解できる。<br>2. 周術期の看護過程の特徴となる看護問題の捉え方を理解できる。<br>3. 周術期にある患者の事例をもとに、情報を収集し、分類ができる |
| 5  | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット3・急性期における看護過程<br>1. 演習スケジュール、および看護過程展開方法を理解できる。<br>2. 周術期の看護過程の特徴となる看護問題の捉え方を理解できる。                                     |
| 6  | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット1・慢性疾患における看護過程<br>1. 病態、成り行き、生活背景をもとにアセスメントから、関連図が記載できる。  |
| 7  | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット4・急性期における看護過程<br>1. 周術期にある患者の事例をもとに、情報を収集し、分類ができる   |
| 8  | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット4・急性期における看護過程<br>1. 分類した情報をアセスメントし、看護過程を展開できる。<br>看護関連図を作成し、看護問題の抽出過程を整理することができる。                                       |
| 9  | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周手術期の看護<br>1. 手術を受ける患者の心身の特徴を踏まえた術前看護について理解する。  |
| 10 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット1・慢性疾患における看護過程<br>1. 個別性に応じたwell-beingを目指した看護計画が立案できる。  |
| 11 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周術期の看護<br>1. 手術を受ける患者の療養環境の実際を見学し、術後ベッドの作成過程と根拠を理解する。<br>2. 身体モニタリングの実際を見学し、術直後アセスメントの視点や具体的方法を理解する。                  |
| 12 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周手術期の看護<br>1. 身体モニタリングを実施し、術直後アセスメントの視点や具体的方法を理解する。   |
| 13 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周手術期の看護<br>1. 身体モニタリングを実施し、術直後アセスメントの視点や具体的方法を理解する。   |
| 14 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周術期の看護<br>1. 異なる事例のシミュレーションをとおして、身体モニタリングの方法とアセスメントを踏まえた看護介入について理解する。   |
| 15 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周術期の看護<br>1. 異なる事例のシミュレーションをとおして、身体モニタリングの方法とアセスメントを踏まえた看護介入について理解する。   |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名          | 学修内容  |
|----|----------------|---|
| 16 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（糖尿病）<br>1.セルフマネジメントを促す教育指導について指導案を作成できる。  |
| 17 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周術期の看護<br>1.アセスメント、診断の方法と根拠、診断の優先順位、目標設定について学ぶ。   |
| 18 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット5・周手術期の看護<br>1.事例を基に、術後離床の支援について理解する。   |
| 19 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット6・クリティカル看護<br>1.急変時の看護ができる。<br>1)急変時の初期対応を理解し、看護師の役割を説明することができる。  |
| 20 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット6・クリティカル看護<br>1.急変時の看護ができる。<br>1)急変時の初期対応を理解し、看護師の役割を説明することができる。  |
| 21 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（慢性呼吸不全）<br>1.シミュレーション学習を通して慢性呼吸不全患者に対するポジショニングと呼吸法が適切に行われているか判断し必要な看護を実施する。           |
| 22 | 内田荘平、末永陽子、秋永和之 | ユニット4・急性期における看護過程<br>1.看護計画の立案について学ぶ。   |
| 23 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（糖尿病）<br>1.糖尿病を持つ対象者の血糖測定を理解し、実施できる。<br>2.糖尿病の対象者のセルフマネジメントのための血糖自己測定を理解し、患者教育できる。     |
| 24 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（脳血管疾患）<br>1.シミュレーション学習を通して脳血管疾患患者に対するアセスメントとセルフケアの再獲得について学ぶ。                          |
| 25 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（糖尿病）<br>1.退院後のセルフマネジメントを促す教育指導について実施できる   |
| 26 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット1・慢性疾患における看護過程<br>1.実施した看護を基に経過記録、看護計画の記載、追加、修正ができる。  |
| 27 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（心不全）<br>慢性疾患を持つ対象者の日常生活支援 事例(慢性心不全)<br>1.慢性心不全患者に対する日常生活指導の必要性を判断する。                   |
| 28 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（肝不全）<br>1.肝不全患者に対する日常生活上の指導の必要性を判断し実施する。<br>1)腹水、下肢の浮腫を観察し、日常生活における留意点についてアセスメントができる。 |
| 29 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（脳梗塞）<br>1.脳梗塞により片麻痺のある対象者に対する口腔ケアについて理解する。  |
| 30 | 岩本利恵、有永麻里、吉田あや | ユニット3・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（脳血管疾患）<br>1.脳血管疾患患者に対する日常生活支援、リハビリテーションについて学ぶ。  |

《専門分野 精神看護学》

|   |                              |   |      |          |          |
|---|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名   | 精神看護論演習                      |   |      | 科目コード    | DN131775 |
| 評価責任者   | 原 やよい 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法  | 演習                           | 単位・必選   | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul> |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |                              |   |      |          |          |
| <p>3年生前期にあるこの科目では、精神看護学概論及び精神看護論の授業内容を活用しながら、精神的健康の保持・増進・回復に向けた精神看護方法の修得を目的とする。精神看護の基盤となる援助的コミュニケーションに基づく人間関係構築方法を修得し、事例を通して入院から地域生活における継続した精神看護を学ぶ。最適な生活（well-being）に向け、さらに精神看護に必要なセルフケア能力を高める支援、認知行動療法、法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働方法などについて学ぶ。</p> <p>実務経験を生かした教育内容<br/>         教員が持つ公立病院等の精神科病棟、精神科デイケアにおける精神看護の実務経験を活かし、さまざまな精神の健康レベルにある対象者の最適な生活（well-being）に向け、精神的健康を保持・増進・回復する看護を具体的に教授する。さらに、実務経験を基に、他職種と協調・協働した医療を提供する方法、入院から地域まで継続した看護について教授していく。</p>   |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |                              |   |      |          |          |
| <p>1．全体像の理解 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害者の意思、健康状態や治療、家族の状況を踏まえ、紙上事例のアセスメントができる。</li> <li>2) 紙上事例について退院後に最適な生活（well-being）を送るために、解決すべき健康上の問題を説明ができる。</li> <li>3) 健康上の問題について、原因および誘因、成り行き、精神障害者および家族の対処能力を説明できる。</li> <li>4) 紙上事例の全体像をICFの関連図および病態関連図で説明できる。</li> <li>5) 安全・安楽・自立を踏まえた看護計画が立案できる。</li> </ol> <p>2．態度形成 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護を提供するために必要な倫理観を養う。</li> <li>2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度を養う。</li> </ol> <p>3．技能</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護を実践するためのコミュニケーション技術およびアセスメント方法を修得できる。</li> <li>2) アセスメント結果を踏まえて、ICFの関連図および病態関連図を使い、患者の全体像捉える方法を修得できる。</li> <li>3) 科学的根拠に基づき、健康上の問題・看護目標・看護計画立案方法を修得できる。</li> <li>4) 看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施および評価する方法を修得できる。</li> </ol> |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |                              |   |      |          |          |
| <p>授業前にシラバスで学習項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく。本科目は、看護技術の修得も必要な科目であるため、演習項目については、技術に関するDVDなどで事前にイメージしておく。また、技術は、根拠を踏まえて、繰り返し技術練習を重ねることで修得可能となる。積極的に自己練習をすること。</p>   |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |                              |   |      |          |          |
| <p>筆記試験（70点）、演習への取り組み・精神看護に対する考え方についての課題レポート（30点）など総合して評価する。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。</p>  |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |                              |   |      |          |          |
| <p>課題レポートなどは、講義前後の予習・復習課題を提示する。課題レポート等は、評価後に返却し、正答および解説を行う。</p>   |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |                              |   |      |          |          |
| <p>（教科書）<br/>         武井麻子 他（著）『系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学(1)』医学書院<br/>         武井麻子 他（著）『系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学(2)』医学書院</p> <p>（参考書）<br/>         菅間真美 他（著）『精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス』南江堂<br/>         出口禎子 他（著）『ナースング・グラフィカ 精神看護学 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版<br/>         白石弘巳 他（著）『ナースング・グラフィカ 精神看護学 精神障害と看護の実践』メディカ出版</p>  |                              |   |      |          |          |



《授業計画》

| 回  | 担当教員名           | 学修内容   |
|----|-----------------|--|
| 1  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | ユニット1 精神障害者とのコミュニケーション(グループディスカッション)<br>1)精神障害者とのコミュニケーションや援助を通して、援助的人間関係を築く方法を学ぶ。<br>2)境界性パーソナリティ障害患者の事例を通して、コミュニケーション方法を学ぶ。                                |
| 2  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | ユニット2 精神障害者(統合失調症患者)を対象とした看護過程(グループワーク・ロールプレイ)<br>1)精神障害者の紙上事例を活用し、情報をゴードンの11の機能的健康パターン毎に整理する方法を学ぶ。<br>2)ゴードンの11の機能的健康パターン毎にアセスメントする方法を学ぶ。                   |
| 3  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 3)アセスメント結果を踏まえて、ICFの関連図および病態関連図を描き、精神障害者の全体像を明らかにする方法を学ぶ。<br>4)精神障害者が健康障害を持ちながらも、最適な生活(well-being)を営める看護方針について学ぶ。<br>5)健康上の問題を明らかにして、優先度を考える方法について学ぶ。        |
| 4  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 6)精神障害者の地域における最適な生活(well-being)を目指した看護目標を設定し、目標到達に向けた科学的根拠に基づく看護計画立案方法を学ぶ。   |
| 5  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 7)看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施する方法(口腔ケア、他職種連携を含む)を学ぶ。<br>また、看護専門職者の責務及び態度としての以下のことを学ぶ。<br>(1)精神看護を提供するために必要な倫理観について考える。<br>(2)精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度について考える。 |
| 6  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 8)最適な生活(well-being)に向け、さらに精神看護に必要なセルフケア能力を高める支援、認知行動療法、法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働方法などについて学ぶ(OSCE含む)。  |
| 7  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 9)精神的健康に向けた看護の評価方法を学ぶ。   |
| 8  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | ユニット3 地域で生活を送る神経発達症の患者を対象とした看護実践<br>1)地域で生活を送る神経発達症の患者に対する、最適な生活(well-being)を目指した看護方法について学ぶ。   |
| 9  | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 2)地域で生活を送る精神障害者に対して、最適な生活(well-being)を目指した具体的な看護実践方法についてグループワークや看護演習を通して学ぶ。  |
| 10 | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 3)地域で生活を送る精神障害者に対する、他職種連携方法を学ぶ。  |
| 11 | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 4)地域で生活を送る精神障害者の精神的健康に向けた看護の評価方法を学ぶ。   |
| 12 | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 5)社会資源の活用方法について学ぶ。   |
| 13 | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | ユニット4 精神症状に応じた看護(ロールプレイ)   |
| 14 | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 1)精神症状の病態・治療から看護実践方法に結びつけて学ぶ。  |
| 15 | 中島富有子、原やよい、黒岩千翔 | 2)精神症状を持つ対象の安全確保の方法を学ぶ。  |

《専門分野 地域在宅看護論》

|                           |                              |   |      |          |          |
|---------------------------|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名                       | 地域在宅看護論                      |   |      | 科目コード    | DN131795 |
| 評価責任者                     | 宮園 真美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法                      | 講義                           | 単位・必選   | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |                              | -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。 |      |          |          |

**授業の目的とねらい**

- 3年生の前期にあるこの科目では、地域在宅看護学概論で学習した地域、在宅で生活する療養者の様々な発達段階、健康レベルにある人々とその家族が生活の質を高めるために必要な、在宅看護の概念と療養者、活動、役割の特徴について学修します。
- 在宅で生活する療養者の健康保持増進のための在宅医療や看護支援のあり方を総合的に理解する。疾病や障がいを持ちながら、また加齢に伴う変化などを有する療養者が、自宅やそれに準じた環境で生活している状況を学修します。
- 保健・医療・福祉のあらゆる側面から、療養者及びその家族に対して生活の質の向上を目指し多職種と連携しながら、各療養者にサービスを提供している事を理解することを目指しています。
- 地域医療・ケアシステムの中で個別的看護を展開するための能力を養います。
- 在宅で生活している療養者が望む場でその人らしく健やかに療養生活を続けられるよう支援について考えることができることを目指して負います。

実務経験を生かした教育内容  
 病院における高齢者看護や訪問看護経験を活かし、地域療養する対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。

**到達目標**

- 知識  
 地域療養を可能にする在宅看護過程の方法を説明できる。  
 様々な療養者と支える家族を取り巻く保健・医療・福祉について説明することができる。  
 「特定行為」を含めた看護技術方法を説明できる。  
 在宅看護における関係機関・関係職種との連携と調整・協同について現状と課題について説明することができる。  
 公民館などで活動している高齢者の生きがいや思いについて述べる事ができる。  
 在宅療養者を療養者とした看護管理・安全管理について説明することができる。
- 態度  
 地域在宅看護を展開するための倫理的態度を養う。
- 技術  
 地域在宅看護の役割について調べ、発表することができる。  
 地域在宅看護について、学んだことを、自分の言葉で説明することができる。  
 各テーマにおいて自分の考えを表現できる。

**準備学修**

必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に約60分/回を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

**成績評価基準**

資料として配布する評価シートにもとづき、各回のレスポンスレポート評価を行い、授業態度・課題内容（20点）とする。筆記試験およびレポート（80点）によって総合100点で評価する。  
 課題の締め切りが遅れた場合は減点対象となる。

**課題等に対するフィードバック**

課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。

**教科書・参考書など**

（教科書）  
 看護学テキストNice 地域・在宅看護論 総論 改訂第3版  
 看護学テキストNice 地域・在宅看護論 支援論 改訂第3版

（参考書）  
 新体系 看護学全書 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護論 メジカルフレンド  
 山田雅子 総監修「映像で感じ、考える、これからの在宅看護論（DVD版 全5巻）」 株式会社ビデオ・パック・ニッポン

《授業計画》

| 回  | 担当教員名 | 学修内容  |
|----|-------|---|
| 1  | 宮園真美  | ユニット1 地域在宅看護における看護の展開【情報収集】<br>1) 必要な情報を得る方法<br>2) 継続看護の中でのアセスメント   |
| 2  | 宮園真美  | ユニット1 地域在宅看護における看護の展開【計画立案と評価】<br>(模擬事例を基に理解する)<br>1) 家族、社会との関わりを考慮した看護診断・看護問題の優先度<br>2) 支援目標、在宅看護計画立案の方法とその共有化の必要性   |
| 3  | 宮園真美  | ユニット1 地域在宅看護における計画立案と評価<br>1) 生活の場で実践される看護がどのような成果をもたらすか、評価・フィードバック方法2) 「特定行為」を含めた看護援助の実際                             |
| 4  | 宮坂啓子  | ユニット2 地域在宅における家族看護<br>1) 在宅看護における家の役割<br>2) 家族のライフサイクル、家族の状況、介護者の負担感、   |
| 5  | 宮坂啓子  | ユニット3 在宅における意思決定と倫理的諸問題<br>1) 療養者のニーズ<br>2) 意思決定の権利とその責任<br>3) 在宅看護の倫理的問題とアドボカシー                                      |
| 6  | 宮坂啓子  | ユニット4 地域在宅看護と関連する関係機関、他職種連携、ケアマネジメント<br>1) 在宅看護の関係機関の働きと連携<br>3) 在宅看護におけるケアマネジメントの重要性                                 |
| 7  | 山中富   | ユニット5 訪問看護ステーションの実際<br>1) 訪問看護ステーションの概要、設置、流れと特徴、療養者、サービスの内容<br>2) 訪問看護ステーションの理念・規定・管理方法                              |
| 8  | 山中富   | ユニット6 福岡県の地域特性や公民館を利用している高齢者の活動<br>1) 公民館などで活動している高齢者の生きがいや思いへの理解<br>2) 地域の特性について、学んだことを、グループワークを通して共有する              |
| 9  | 宮坂啓子  | ユニット7 訪問技術、コミュニケーション<br>1) 訪問時のマナーと家庭の特徴<br>2) 訪問看護における信頼関係の形成のための技術  |
| 10 | 山中富   | ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際(1)<br>1) 通所看護、レスパイトケア、母子を対象とした地域在宅看護<br>子育て世代包括ケアシステム推進のためのモデル事業への理解<br>医療的ケア児への 安全な在宅移行支援への理解 |
| 11 | 山中富   | ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際(2)<br>2) 精神、認知へ障害のある療養者への理解<br>精神障がいを持ちながら地域で生活する対象への看護の特徴<br>対象への日常生活援助                       |
| 12 | 山中富   | ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際(3)<br>3) 難病疾患療養者<br>難病をはじめとする医療依存度の高い療養者への行政的な支援、サービス  |
| 13 | 山中富   | ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際(4)<br>4) 在宅で多く提供される看護技術<br>褥瘡、経管栄養、胃ろう、膀胱留置カテーテル、在宅酸素療法、人工呼吸器、<br>中心静脈栄養の援助の実際                 |
| 14 | 山中富   | ユニット9 地域在宅看護における事故防止と安全管理<br>1) 在宅看護における医療・ケア事故、安全管理について<br>2) 在宅療養者の安全でその人らしい生活に向けた看護の方向性、在宅看護の重要性について               |
| 15 | 宮園真美  | ユニット10 地域在宅看護における今後の課題<br>住み慣れた地域において生活する療養者が生きがいを持ちつつ、より良い(well-being)生活を送るために必要な看護について考察し共有する                       |

《専門分野 地域在宅看護論》

|                           |                              |   |      |          |          |
|---------------------------|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名                       | 地域在宅看護論演習                    |   |      | 科目コード    | DN131800 |
| 評価責任者                     | 宮園 真美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法                      | 演習                           | 単位・必選   | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |                              | -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。 |      |          |          |

**授業の目的とねらい**

3年生の前期にあるこの科目では、在宅看護学概論、在宅看護論で学習した地域・在宅で生活する利用者とその家族への理解を深めるために、在宅看護の役割について演習を通して理解を深めます。在宅看護の展開においては生活環境への視点、社会資源や制度のケアシステムと在宅ケアチームの協働の意義を考察します。  
 在宅における看護過程の展開は、在宅で療養中の紙上事例を用いて、アセスメント、健康課題の明確化、援助計画の立案を行い、在宅での看護援助を適切に展開するための看護過程の基本的な考え方を修得します。  
 ユニット毎の課題に対して、自分で読み解く力、重要なポイントをまとめる力、他者にわかりやすく伝える力を育成するために、一方向ではなく双方向的授業を取り入れます。

実務経験を生かした教育内容  
 地域における公衆衛生看護や訪問看護の経験を活かし、地域療養する対象者および家族の最適な生活 (well-being) を目指した看護実践を指導する。  
 アクティブラーニング  
 グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ

**到達目標**

1. 知識  
 地域在宅看護に関する用語や社会資源や制度の活用について説明できる。
2. 態度  
 在宅における紙上事例を用いて立案し、家族、地域、社会などの関連を考察し、在宅看護の特性を反映した看護過程が紙上で展開できる。  
 疾病や障がいを持つ在宅利用者のセルフケア（栄養、排泄、カテーテル管理など）や医療依存度の高い利用者の看護についてまとめ、実践することができる。  
 公民館活動に参加している地域住民の日常生活行動及びその環境について、学習やふれあいを通して知り、在宅で暮らす意義について考え、発表する事ができる。
3. 技術  
 地域在宅看護に関する用語や社会資源や制度については、徹底ワーク集として一冊にまとめ、在宅看護の理解を深め、在宅看護論実習および訪問看護論実習に活用する。

**準備学修**

必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他、事前・事後学習活動に約60分/回を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

**成績評価基準**

授業態度・課題内容（20点）とレポート評価（80点）によって総合100点で評価する。  
 レポートは毎回提出する。課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。

**課題等に対するフィードバック**

課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。

**教科書・参考書など**

（教科書）  
 看護学テキストNice 地域・在宅看護論 総論 改訂第3版  
 看護学テキストNice 地域・在宅看護論 支援論 改訂第3版

（参考書）  
 新体系 看護学全書 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護論 メジカルフレンド  
 山田雅子 総監修「映像で感じ、考える、これからの在宅看護論（DVD版 全5巻）」 株式会社ビデオ・パック・ニッポン

《授業計画》

| 回  | 担当教員名        | 学修内容  |
|----|--------------|---|
| 1  | 宮園真美         | 1.在宅ケアシステムと構成要素   |
| 2  | 山中富          | 2.訪問看護ステーションの管理・運営およびリスクマネジメント  |
| 3  | 宮坂啓子         | 3.在宅療養者と家族の住環境整備<br>4.在宅療養者と家族の安全な活動及び自立した生活  |
| 4  | 宮坂啓子         | 5.在宅療養者と家族の摂食状況<br>6.在宅における経管栄養法，中心静脈栄養法  |
| 5  | 宮坂啓子         | 7.在宅療養者の保清支援  |
| 6  | 山中富          | 8.在宅療養者の排泄（排尿・排便）を整える援助   |
| 7  | 宮坂啓子         | 9.在宅療養者の安楽な呼吸を整える援助   |
| 8  | 山中富          | 10.在宅療養者のフィジカルアセスメント<br>1)在宅におけるフィジカルアセスメント「問診」「視診」「触診」「打診」「聴診」原則と方法<br>2)訪問看護に必要な測定，観察，症状アセスメント          |
| 9  | 山中富          | 11.公民館活動<br>近隣の公民館活動参加<br>地域住民の日常生活や健康行動への理解  |
| 10 | 町島希美絵<br>山中富 | 12.【看護過程演習】<br>1)視聴覚教材および実際に使用する記録用紙による情報収集<br>経時に変化する容態毎の看護展開<br>2)在宅における看取りの看護の実際を理解する                  |
| 11 | 町島希美絵<br>山中富 | 3)がん末期療養者によくみられる症状と緩和ケアのポイント<br>4)がん末期療養者の疼痛管理について  |
| 12 | 町島希美絵<br>山中富 | 5)がん療養者の対症療法，代替療法について<br>6)がん末期療養者の家族支援とグリーフケア  |
| 13 | 宮園真美<br>宮坂啓子 | 13.グループワーク、個人ワーク<br>1)提示された事例の療養者や家族について，必要な情報をもとに全体像を説明する<br>2)必要な情報を収集し，アセスメント用紙に記載する                   |
| 14 | 宮園真美<br>宮坂啓子 | 3)全体像を関連図に示す<br>4)あらゆる側面から総合的にアセスメントし，看護問題を明確にする<br>5)がん末期療養者である対象の看護目標，看護計画の立案をする<br>6)看護の評価の視点を理解し，記述する |
| 15 | 宮園真美<br>宮坂啓子 | 7)発表を通して，看護過程の展開と事例対象の在宅看護のポイントを理解する<br>8)既習の学習内容と関連して理解する<br>今後の在宅医療に求められる体制づくりおよび自分の在宅看護観を考える           |

|   |                              |   |      |          |          |
|---|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名   | 在宅高齢者ケア                      |   |      | 科目コード    | DN131865 |
| 評価責任者   | 宮坂 啓子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 8回       |
| 授業方法  | 演習                           | 単位・必選   | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul> |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |                              |   |      |          |          |
| 3年生の前期にあるこの科目では、既習の認知症高齢者への学習に基づき、認知症の進行に伴う行動変化や、認知症高齢者の日常生活・社会生活に適應するための生活環境の整え方の事例を通して多方面から学び、認知症および高齢者の精神活動と看護の在り方 について理解するとともに、認知症を持ちながら在宅で生活する人々の QOL の維持・向上を追求する基本的知識および関わり方の技術を習得する。   |                              |   |      |          |          |
| 実務経験を生かした教育内容<br>在宅で療養している認知症高齢者への療養生活支援技術や診療介助技術、健康維持増進を目的とした生活指導、家族を含めた対象への理解、アセスメントおよび看護の展開に関して実務者の看護実践を通して教授する。   |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |                              |   |      |          |          |
| 1. 知識<br>認知症について必要な情報を得る方法や得た情報方法を説明できる。<br>認知症の症状、BPSDを誘発する要因、適切な対応方法を理解する。<br>社会環境・資源（認知症に関わる制度・政策）の具体的ーピス内容を理解し多職種連携について理解する。「<br>ICF（国際生活機能分類）、生活機能障害という観点から認知症を説明できる。<br>認知症の人と家族を支える関係機関・関係職種との連携と調整・協同について現状と課題について説明することができる。<br>施設や自宅で生活をする認知症高齢者とその家族の看護問題について事例を通して、介護困難・介護負担と家族支援、ケアマネジ |                              |   |      |          |          |
| 2. 態度<br>認知症の人と家族に対する倫理的態度を養う。 認知症の人と家族の苦しみなど、老いについて考え学びを習得する。  |                              |   |      |          |          |
| 3. 技術<br>実際のケア現場からの話を聞き、知得を得て、認知症の人の現状について記述することができる。<br>実際のケア現場からの話を聞き知得し認知症の人の看護の方向性について説明することができる。<br>認知症高齢者の生活アセスメントができ、その判断をリスクマネジメント、自立した生活援助に結びつけた看護が説明できる。<br>認知症高齢者および家族への看護の現状と今後の課題について考察できる。  |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |                              |   |      |          |          |
| 準備学修は用語の下調べ、認知症に人をアセスメントするのに必要な認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の理解等について準備時間とする。（全体で30時間程度）<br>学生は、講義前にシラバスの予習内容ならびに行動目標を理解した上で、事前レポートを提出すること。講義後は、講義中に指定した資料を中心に、講義内容を復習すること。   |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |                              |   |      |          |          |
| 課題レポート（80点）、授業態度（ワークへの参加度など）・課題内容（20点）によって総合100点で評価する。<br>レポートは毎回提出する。<br><br>課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。  |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |                              |   |      |          |          |
| 事例を通して作成するアセスメントと看護過程に関しては、提出後に教員より事例の参考記入例を提示しながら説明する。<br>レスポンスカードに記入された「理解できた事」「理解できなかった事」は、次回の講義で説明し学生の理解を深めるようにする。  |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |                              |   |      |          |          |
| 教科書：鳥羽研二他 著『系統看護学講座専門分野 老年看護 病態・疾病論』 医学書院<br>参考書：十束支朗 著 『認知症のすべて～あなたはわかっていますか～』 医学出版社トム・キットウッド<br>Souren L. & Franssen E 著、『認知症のパーソンセンタードケア』 筒井書房<br>クリスティーン・ボーデン 著『私はだれになっていくの？アルツハイマー病者からみた世界』 クリエイトかもがわ<br>中島記恵子他 著『認知症高齢者の看護』 医歯薬出版株式会社   |                              |   |      |          |          |

《授業計画》

| 回 | 担当教員名                 | 学修内容  |
|---|-----------------------|---|
| 1 | 宮坂啓子                  | <p>認知症について必要な情報を得る方法や得た情報を認知症の症状、BPSDを誘発する要因と関連付け、適切な対応方法を理解する。</p> <p>1) 認知症について必要な情報を得る方法や得た情報をどのように判断するか、そのポイントについて説明できる。</p> <p>2) 高齢者と認知症のそれぞれについて理解し、結びつけることができる。</p> |
| 2 | 宮坂啓子                  | <p>社会資源（認知症に関わる制度・政策）や多職種連携について理解する。</p> <p>1) 新オレンジプラン、介護保険制度などの理解とその活用方法と関わる職種について説明できる。</p> <p>2) 認知症の人の生活支援に必要な多職種チームの在り方や訪問看護の実践について説明できる。</p>                         |
| 3 | 宮坂啓子                  | <p>DVD 視聴を通して、認知症ケアの基本的な考え方について理解する。</p> <p>1) ICF を活用アセスメントの枠組みに沿って情報収集し認知症の人の全体像および問題点を挙げる。</p> <p>2) 認知症の人（若年性認知症）及び家族への支援とその対象者に関わる基本的態度を説明することができる。</p>                |
| 4 | 宮園真美<br>宮坂啓子<br>町島希美絵 | <p>認知症の人の生活を知る。（ゲストスピーカー）</p> <p>1) 実際のケア現場からの話を聞き、知得を得て、認知症の人の現状について話を聞き、感想を記入する。</p> <p>2) 認知症の人の現状について、実際のケア現場からの話を聞き知得し認知症の人の看護の方向性について説明することができる。</p>                  |
| 5 | 宮坂啓子                  | <p>DVD「認知症の人の奥に気づくには？」のDVDを見て、認知症の人の思いや目や手で伝えるメッセージについて考えることができる。</p> <p>1) 認知症の人の帰宅願望について居場所探しについて理解し説明できる。</p> <p>2) 不穏、興奮、攻撃など不安や怒りの裏付けについて理解し説明できる。</p>                 |
| 6 | 町島希美絵<br>宮坂啓子         | <p>認知症高齢者とその家族の看護問題について事例を通して理解できる。</p> <p>1) 家族、社会との関わりを考慮した看護問題の優先度を説明できる。</p> <p>2) 支援目標、看護計画立案の方法とその共有化の必要性について説明できる。3) 事例の看護目標の設定、看護計画の立案ができ、評価の視点を理解できる。</p>          |
| 7 | 町島希美絵<br>宮坂啓子         | <p>事例を通して立案した看護計画を発表できる。</p> <p>1) グループごとに、看護の展開内容について発表を行う。</p> <p>2) 対象をどのように捉え、どのような看護が必要であるかプレゼンテーションできる。</p>   |
| 8 | 宮坂啓子                  | <p>認知症高齢者および家族への看護の現状と今後の課題について考察できる。</p> <p>現状の問題を把握でき、今後の認知症高齢者の課題について考える事ができる。</p>   |

|   |                              |  |        |          |          |
|---|------------------------------|--|--------|----------|----------|
| 科目名   | 医療安全管理                       |  |        | 科目コード    | DN132870 |
| 評価責任者   | 内田 荘平 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |  |        | 授業回数     | 8回       |
| 授業方法  | 講義                           | 単位・必選  | 1・選択必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   |                              | -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。<br>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。 |        |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |                              |  |        |          |          |
| <p>医療安全について大学在籍中に学ぶことは、卒業後に保健師・看護師として、医療の安全性を高めていくために医療事故が日常的に起こる可能性を認識することが重要だと考えている。</p> <p>チーム医療の一員として、医療や看護を安全に提供するために、必要な基本的な考え方、および、組織としての事故防止対策と感染制御、情報管理の取り組みの意義や体制について学ぶことを目的としている。</p> <p>具体的には、事故発生メカニズムを考察し、医療安全に必要な知識・技術、特にヒューマンファクターを加味した防止システムの設計やリスクマネジメント、リスク拡大防止や軽減の一方法であるコンフリクトマネジメントの基本について理解する。また、各領域の発生しやすいインシデント・アクシデントについて、具体的な臨床事例を取り上げ、発生要因において考慮しなければならない点や医療事故の発生予測と回避方法について考察する。</p>                                       |                              |  |        |          |          |
| <b>到達目標</b>   |                              |  |        |          |          |
| <p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 医療安全に関する用語を理解できる。</p> <p>2) ヒューマンエラーの種類と不安全行動の防止対策について説明できる。</p> <p>3) 診療の補助における安全確保について説明ができる。</p> <p>4) 療養上の世話における安全確保について説明ができる。</p> <p>5) 侵襲が高い医療行為における安全対策が説明できる。</p> <p>6) 医療安全におけるリスクコミュニケーションの重要性が説明できる。</p> <p>7) 組織の医療安全対策の背景と取り組み内容について説明できる。</p> <p>8) 医療事故に伴う看護職の法的責任について説明できる。</p> <p>2. 態度</p> <p>医療の安全性を高めていくために医療事故が日常的に起こる可能性を認識できる</p> <p>3. 技能</p> <p>医療安全（事故防止・感染管理・情報管理）の視点を持ち安全な看護サービスに参加する準備ができる。</p> |                              |  |        |          |          |
| <b>準備学修</b>   |                              |  |        |          |          |
| <p>講義前にシラバスの学習項目ならびに到達目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目や課題）、その他の学習活動に約120分/週を費やすこと。目を通しておくこと。また、授業で配布するプリントや返却されたレポートなどについても予習、復習に活用すること。全体として29時間程度の予習復習時間を要する。</p> <p>学習課題・資料は、福岡学園（福岡看護大学）e-Learningシステム内に提示している「医療安全資料」を活用する。<br/> <a href="https://moodle.student.fdcnet.ac.jp/course/index.php?categoryid=3">https://moodle.student.fdcnet.ac.jp/course/index.php?categoryid=3</a></p>  |                              |  |        |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |                              |  |        |          |          |
| 筆記試験(50%)、授業態度および課題点(50%)として総合100点で評価する。  |                              |  |        |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |                              |  |        |          |          |
| 課題レポート等は評価後に返却し、解説をその都度行う。  |                              |  |        |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |                              |  |        |          |          |
| <p>教科書</p> <p>山内豊明・荒井有美：『医療安全，多職種でつくる患者安全をめざして』 南江堂，2015</p> <p>参考資料</p> <p>『医療安全推進のための標準テキスト』 日本看護協会 2013</p>  |                              |  |        |          |          |



《授業計画》

| 回 | 担当教員名 | 学修内容   |
|---|-------|--|
| 1 | 内田荘平  | ユニット1<br>看護における安全管理の概念について学ぶ<br>・なぜ医療安全を学ぶ必要性があるのか<br>・医療安全の考え方の変化<br>・患者主体の医療と医療安全          |
| 2 | 内田荘平  | ユニット2<br>人間の行動特性とヒューマンエラーについて学ぶ<br>・ヒューマンファクターの考え方<br>・ヒューマンエラーの分類<br>・ヒューマンファクターからみた医療安全の鉄則 |
| 3 | 内田荘平  | ユニット3<br>看護・医療事故の実態<br>「療養上の世話」業務における医療事故について学ぶ<br>事例と防止策を検討する                               |
| 4 | 内田荘平  | ユニット3<br>看護・医療事故の実態<br>「診療の補助」業務における医療事故について学ぶ<br>事例と防止策を検討する                                |
| 5 | 上中香代子 | ユニット3<br>看護・医療事故の実態<br>業務領域をこえて共通する医療事故について学ぶ<br>情報漏洩事故の影響とその対策について学ぶ<br>暴力対策について学ぶ          |
| 6 | 内田荘平  | ユニット4<br>感染防御とパンデミックについて学ぶ<br>・感染対策の意義と考え方（標準予防策、感染経路別予防策）<br>・職業感染対策<br>・医療器具感染防止とサーベイランス   |
| 7 | 青木久恵  | ユニット5<br>医療安全推進のための取り組み<br>・医療施設で実施されている医療安全推進のための取り組みについて学ぶ                                 |
| 8 | 青木久恵  | ユニット5<br>医療安全推進のための取り組みについて学ぶ<br>・医療施設で実施されている医療安全推進のための取り組みについて学ぶ                           |

|  |                              |   |      |          |          |
|--|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名  | 看護研究方法論                      |   |      | 科目コード    | DN131875 |
| 評価責任者  | 飯野 英親 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法   | 講義                           | 単位・必選   | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  |                              | -6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。<br>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |                              |   |      |          |          |
| この科目では、看護研究の意義と研究に必要な基礎知識を学ぶために、研究の基礎知識、文献検索、看護研究方法・結果の解釈、考察について学び、看護研究を進めるために必要な全般的技能について学修する。また、医療系論文データベース、医学知識データベース等についての理解を深める。合わせて「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」を理解し、対象者の権利擁護のための倫理的配慮についても学修する。  |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>  |                              |   |      |          |          |
| 1.全体像の理解（知識）<br>1) 看護研究の目的とプロセス、エビデンスに基づく看護実践の必要性について説明することができる。<br>2) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（厚生労働省）」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」について、ガイドラインの概要と研究倫理の要点について説明することができる。<br>3) 看護研究の中から分散・検定・多変量解析手法等を用いた看護研究、臨床研究について例を挙げて説明できる。<br>4) 半構成的面接法等を用いた質的看護研究の方法、分析、結果の提示方法について例を挙げて説明できる。<br>2.態度形成（態度）<br>1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。<br>2) 4年次の看護課題研究につながる看護研究を学ぶ積極的な学修態度を養う。<br>3.スキル形成（技能）<br>1) 医学中央雑誌、CINAHL、PubMedで論文を検索しリストにできる。<br>2) 看護課題研究に生かせるように、自身の関心があるキーワードに沿って文献検索を行う。<br>3) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。 |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>  |                              |   |      |          |          |
| 課題を通して復習することがあるので、与えられた課題は必ず実施して授業に出席すること。授業前にシラパスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。  |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |                              |   |      |          |          |
| レポート（課題レポートを含む）（90点）、授業態度・発言・積極性等（10点）など総合して評価する。授業に対するコメントなど、提出物の期限が守れなかった場合は減点対象（-5点）とする。  |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |                              |   |      |          |          |
| ミニ課題レポートはフィードバックし授業を通してコメントをフィードバックする。授業に対するコメントは返却し、今後の学習に生かすことができるよう解説を行う。   |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |                              |   |      |          |          |
| 教科書<br>南 裕子編集『看護における研究 第2版』、日本看護協会出版会、2017<br>参考書（WEBからダウンロード可能）<br>『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）』<br>『研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）』<br>『看護者の倫理綱領（日本看護協会）』<br>その他、演習を通して適宜、文献や資料を紹介・配布する。   |                              |   |      |          |          |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名 | 学修内容   |
|----|-------|--|
| 1  | 飯野英親  | ユニット1 オリエンテーション 看護研究概論、看護研究の目的とプロセス・成果発表について学ぶ。卒業研究（4年次の看護課題研究）とのつながりについて理解する。                                   |
| 2  | 飯野英親  | ユニット2 文献検索<br>医中誌、CiNii等の医療系の日本語論文データベースの概要を知る。日本語文献の検索法と注意点について理解する。  |
| 3  | 飯野英親  | ユニット2 文献検索<br>外国語文献検索法と注意点について学ぶ。PubMed、CINAHLで英語論文を検索し、論文のダウンロード方法、管理方法について理解する。                                |
| 4  | 荒川満枝  | ユニット3 量的研究の概要<br>統計的手法を用いた量的研究の研究デザイン、方法、分析等について理解する。  |
| 5  | 荒川満枝  | ユニット3 量的研究の概要<br>統計的手法を用いた量的研究の研究デザイン、方法、分析等について理解する。  |
| 6  | 荒川満枝  | ユニット3 量的研究の概要<br>応用的統計的手法を用いた量的研究の研究デザイン、方法、分析等について理解する。   |
| 7  | 荒川満枝  | ユニット3 量的研究の概要<br>応用的統計的手法を用いた量的研究の研究デザイン、方法、分析等について理解する。   |
| 8  | 荒川満枝  | ユニット3 量的研究の概要<br>量的研究手法の看護系論文・臨床研究論文を用いて、研究デザイン、手法、結果の提示方法等について学ぶ。   |
| 9  | 荒川満枝  | ユニット3 量的研究の概要<br>量的研究手法の看護系論文・臨床研究論文を用いて、研究デザイン、手法、結果の提示方法等について学ぶ。   |
| 10 | 得能智武  | ユニット4 実験研究の概要<br>看護系・医学系で使われる初歩的な実験研究の研究デザイン、方法、分析等について学び、実験研究方法について学ぶ。  |
| 11 | 得能智武  | ユニット4 実験研究の概要<br>看護系・医学系で使われる初歩的な実験研究の研究デザイン、方法、分析等について学び、実験研究方法について学ぶ。  |
| 12 | 得能智武  | ユニット4 実験研究の概要<br>看護系・医学系で使われる初歩的な実験研究の研究デザイン、方法、分析等について学び、実験研究方法について学ぶ。  |
| 13 | 飯野英親  | ユニット5 質的研究の概要<br>質的研究（半構成的面接法、フォーカスグループインタビュー）の研究デザイン、方法、分析等について学び、質的研究の概要について学ぶ。                                |
| 14 | 永嶋哲也  | ユニット6 研究と倫理<br>「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」をもとに、研究と倫理について学ぶ。 |
| 15 | 飯野英親  | ユニット7 文献研究の概要と論文内容の整理<br>文献研究の目的、方法、分析等について学び、文献研究の概要について学ぶ。   |

《専門分野 公衆衛生看護学》

|   |                              |   |        |          |          |
|---|------------------------------|---|--------|----------|----------|
| 科目名   | 公衆衛生看護活動論（組織・集団・地域支援、地域診断）   |   |        | 科目コード    | DN132820 |
| 評価責任者   | 吉田 大悟 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |        | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法  | 演習                           | 単位・必選   | 1・選択必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   |                              | -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。<br>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |        |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |                              |   |        |          |          |
| 本演習では、地域保健活動計画の基盤となる地域診断について、その概念と方法を理解することを目的とする。対象校区の地区踏査や住民へのインタビューを通して地域の健康問題や課題を把握する。把握できた課題に対して、住民のニーズに沿った地域保健活動計画についてグループワークを通して立案し、プレゼンテーションを実施することで学びを深める。<br>また演習を通して、個人ではなく組織・集団・地域への支援方法の実務的な側面を学習し、公衆衛生看護活動におけるPDCAサイクルの考え方や地域保健活動に用いられるモデルや理論についての学びを深める。<br><実務経験を生かした教育内容><br>演習は地域診断や地域保健活動の経験を有した教員が実践的教育を行う。   |                              |   |        |          |          |
| <b>到達目標</b>   |                              |   |        |          |          |
| 1. 全体像の理解 知識<br>1) 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断について、その目的・利便性・実践を導くための理論となるモデルについて理解し、説明することができる。<br>2) 地区踏査のための準備として保健統計などの既存資料を理解し、地域の現状について説明することができる。<br>3) 校区住民にインタビューを行い、住民の日常生活や生活環境および社会的環境を理解し、説明することができる。<br>4) 住民の生活から推測した健康問題について理解し、説明することができる。<br>2. 態度形成 態度<br>1) 積極的にディスカッションや地区踏査に参加し、自分の意見を述べるすることができる。<br>2) グループワークで課題を達成するために自分に与えられた役割（資料作成、発表など）を果たすことができる。<br>3. スキル形成<br>1) 立案した計画を基に地区踏査を実施できる。<br>2) インタビューガイドを基に住民へのインタビューを実施できる。<br>3) 妊産婦や高齢者の疑似体験を通して健康上の問題を推測し、地域保健計画に反映することができる。<br>4) 地域診断で得られた情報を基に住民の健康課題を考え、地域保健計画を立案できる。 |                              |   |        |          |          |
| <b>準備学修</b>   |                              |   |        |          |          |
| 講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目に目を通しておくこと。<br>学生は課せられる課題や、その他学習活動に約15時間を費やすこと。   |                              |   |        |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |                              |   |        |          |          |
| 筆記試験（40%）および授業態度と演習レポート（60%）として総合100点で評価する。   |                              |   |        |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |                              |   |        |          |          |
| 演習で作成するレポート等は教員が確認し、適宜助言を行う。<br>全演習終了後、提出されたレポートについて成績評価を実施する。  |                              |   |        |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |                              |   |        |          |          |
| （教科書）<br>上野昌江 『公衆衛生看護学 第3版』 中央法規<br>中村裕美子 他 『標準保健師講座2 公衆衛生看護技術』 医学書院<br><br>（参考書）<br>金川 克子 『地域看護診断 第2版』 東京大学出版会 2011年<br>佐伯和子 編著 『地域看護アセスメントガイド 第2版』 医歯薬出版株式会社 2018年<br>水嶋 春朝 『地域診断のすすめ方：根拠に基づく健康政策の基盤』 医学書院 2000年  |                              |   |        |          |          |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名     | 学修内容   |
|----|-----------|--|
| 1  | 吉田大悟      | ユニット1 地域診断の概念と理論   |
| 2  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット2 地域診断の方法  |
| 3  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット2 地域診断の方法  |
| 4  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット2 地域診断の方法  |
| 5  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット3 地域診断の実践<br>・地区踏査の事前準備と地域住民へのインタビューガイドの作成<br>グループワークの実施   |
| 6  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット3 地域診断の実践 【地区踏査】<br>・対象校区内の地区踏査を実施する<br>・妊産婦や高齢者の疑似体験を通して発達段階別の健康問題を理解する<br>フィールドワークの実施                                    |
| 7  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット3 地域診断の実践 【地区踏査】<br>・対象校区内の地区踏査を実施する<br>・妊産婦や高齢者の疑似体験を通して発達段階別の健康問題を理解する<br>フィールドワークの実施                                    |
| 8  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット3 地域診断の実践 【地区踏査】<br>・地区踏査を振り返り、思考の整理と学びの共有を行う<br>・地区踏査で得た情報を記録用紙および地図にまとめる<br>フィールドワークの実施                                  |
| 9  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット3 地域診断結果の整理<br>・地区踏査で得た情報を記録用紙および地図にまとめる<br>・地区踏査で得た情報を基に住民の健康問題について再考し、地域保健活動計画について理解できる<br>グループワークの実施                    |
| 10 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット3 地域診断結果の整理<br>・地区踏査で得た情報を記録用紙および地図にまとめる<br>・地区踏査で得た情報を基に住民の健康問題について再考し、地域保健活動計画について理解できる<br>・グループワークを行い、インタビューガイドの追加修正を行う |
| 11 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット4 校区住民へのインタビュー実施<br>・住民の日常生活や生活環境についての意見を聞く<br>・生活および社会的環境を把握する<br>フィールドワークの実施   |
| 12 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット4 校区住民へのインタビュー実施<br>・住民の日常生活や生活環境についての意見を聞く<br>・生活および社会的環境を把握する<br>フィールドワークの実施   |
| 13 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット4 校区住民へのインタビュー実施<br>・インタビュー内容について各発達段階でまとめる<br>グループワークの実施  |
| 14 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット5 地域診断の報告書作成<br>・地域診断から保健活動計画策定までの全プロセスについてまとめる<br>グループワークの実施  |
| 15 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット5 地域診断の報告書作成<br>・地域診断および保健活動計画の発表会とまとめ<br>・演習全体の振り返りとまとめ<br>グループワークの実施   |

《専門分野 公衆衛生看護学》

|  |                              |   |        |          |          |
|--|------------------------------|---|--------|----------|----------|
| 科目名  | 公衆衛生看護活動論 (対象別公衆衛生看護活動論)     |   |        | 科目コード    | DN132825 |
| 評価責任者  | 吉田 大悟 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |        | 授業回数     | 15回      |
| 授業方法   | 講義                           | 単位・必選   | 1・選択必修 | 開講年次・開講期 | 3年・前期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  |                              | -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。<br>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。<br>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |        |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |                              |   |        |          |          |
| 本講義では、個人および家族の発達段階に関連する理論について学び、対象のニーズに応じた継続的な保健活動について学修する。そして各保健分野（成人・母子・高齢者・歯科・感染症・障害者・難病・精神）の理念や保健活動の変遷および動向を学び、各発達段階に特徴的な地域保健活動の実践について理解することを目的とする。また対象者の主体的な健康課題の解決に向けた地域における社会資源を活用した支援活動について学習する。<br><実務経験を生かした教育内容><br>講義は、保健活動の経験がある教員がその経験を活かした実践的教育を実施する。   |                              |   |        |          |          |
| <b>到達目標</b>  |                              |   |        |          |          |
| 1. 全体像の理解 知識<br>1) 対象別公衆衛生看護活動について理解し、説明することができる。<br>2) 対象別公衆衛生看護活動に関する法令および理論の概要を理解し、説明することができる。<br>3) 各発達段階に応じた地域保健活動の実践について理解し、説明することができる。<br>4) 地域の社会資源を活用した支援活動について理解し、説明することができる。<br>2. 態度形成 態度<br>1) 積極的にグループディスカッションへ参加し、自分の意見を述べるすることができる。<br>2) グループワークにおいて、課題を達成するために自分に与えられた役割を果たすことができる。<br>3. スキル形成<br>1) 公衆衛生看護活動対象別の活動方法と特徴についてプレゼンテーションを行うことができる。 |                              |   |        |          |          |
| <b>準備学修</b>  |                              |   |        |          |          |
| 講義前にシラバスの到達目標を理解した上で、教科書の項目に目を通しておくこと。<br>学生は課せられる課題や、その他の学習活動に15時間を費やすこと。<br>講義後は、配布資料と教科書を用いて、講義内容を復習すること。   |                              |   |        |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |                              |   |        |          |          |
| 筆記試験 (80%)、授業態度・課題レポート内容 (20%) とし、総合100点で評価する。   |                              |   |        |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |                              |   |        |          |          |
| 演習で作成するレポート等は教員が確認し、適宜助言を行う。<br>全演習終了後、提出されたレポート・および成果物について成績評価を実施する。  |                              |   |        |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |                              |   |        |          |          |
| (教科書)<br>上野昌江 『公衆衛生看護学 第3版』 中央法規<br>水田祥代 窪田恵子 他 『看護で教える口腔ケア』 大道学館出版部<br>中村裕美子 他 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』 医学書院<br>中谷芳美 他 『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』 医学書院<br>厚生労働統計協会 『国民衛生の動向 2023/2024』 厚生労働統計協会<br><br>(参考書)<br>神馬 征峰 『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度 2』 医学書院   |                              |   |        |          |          |

《授業計画》

| 回  | 担当教員名     | 学修内容   |
|----|-----------|--|
| 1  | 寒水草納      | ユニット1 母子保健活動<br>1)母子保健の動向について<br>2)母性各期の健康課題と支援について<br>3)乳幼児期の成長・発達と健康課題の支援について<br>4)支援のニーズが高い親子の健康課題と支援について |
| 2  | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット1 母子保健活動<br>5)家庭訪問における事例検討<br>グループワークの実施   |
| 3  | 吉田大悟      | ユニット2 成人保健活動<br>1)成人保健の動向について<br>2)成人期の保健活動について  |
| 4  | 吉田大悟      | ユニット2 成人保健活動<br>3)生活習慣病と特定健康診査および特定保健指導について  |
| 5  | 寒水草納      | ユニット3 高齢者への保健活動<br>1)高齢者保健医療福祉の動向について<br>2)高齢者の健康課題と支援について   |
| 6  | 晴佐久悟      | ユニット4 歯科保健活動<br>1)歯科保健の動向について  |
| 7  | 晴佐久悟      | ユニット4 歯科保健活動<br>2)歯科保健活動の実際について  |
| 8  | 寒水草納      | ユニット5 感染症保健活動<br>1)感染症保健の動向について<br>2)感染症保健施策と保健師活動について   |
| 9  | 寒水草納      | ユニット5 感染症保健活動<br>3)疾病管理について  |
| 10 | 吉田大悟      | ユニット6 障害者保健活動<br>1)障害者保健医療福祉の動向について<br>2)障害者保健活動について   |
| 11 | 吉田大悟      | ユニット7 難病保健活動<br>1)難病対策の動向について<br>2)難病患者への支援・保健活動について   |
| 12 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット7 難病保健活動<br>3)難病保健活動の事例検討<br>グループワークの実施  |
| 13 | 吉田大悟      | ユニット8 精神保健活動<br>1)精神保健医療福祉の動向について<br>2)精神障害者の生活と支援について   |
| 14 | 吉田大悟      | ユニット8 精神保健活動<br>3)社会病理を背景とする精神的問題について  |
| 15 | 吉田大悟、寒水草納 | ユニット8 精神保健活動<br>4)精神保健活動の事例検討<br>グループワークの実施  |

《専門分野 小児看護学》

|                           |                              |   |      |          |          |
|---------------------------|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名                       | 小児看護学実習                      |   |      | 科目コード    | DN131670 |
| 評価責任者                     | 飯野 英親 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 45回      |
| 授業方法                      | 実習                           | 単位・必選   | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |                              | -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。<br>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。<br>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |      |          |          |

**授業の目的とねらい**

小児看護の概念や理論をふまえ、成長・発達過程にある小児および家族との関わりを通して対象理解を深め、個別的看護を実践する過程における技法を修得する。また、臨地実習体験を通して倫理的視点を養うとともに、現代の小児と家族が抱える課題を考え、今後の小児看護の役割と子どもの権利を守る考え方を習得する。

実習前にシラバスの学習目標、並びに、行動目標を理解したうえで、予習内容を学習し、実習における看護実践に活用する。小児保健や保育活動に関連する書籍での学習が必要となる。医療施設での実習は、病院の小児内科系病棟または小児外科系病棟において、看護計画を立案、実践し、看護過程を展開する。小児看護学概論での成長発達、健常児の生活、小児保健に関する学修と連動させて、保育園での実習は健康な子どもの生活や成長・発達段階について理解し、必要な支援を一部保育士とともに実践する。実習カンファレンスでは、ディスカッションにより自己の学習を深める。医療施設、保育園ともに、地域とのつながりを意識し、子育て支援や退院支援等についても理解を深める。この科目は、事前学習を実施する。事前学習を臨地実習にて活用する。

**実務経験を生かした教育内容**

大学附属病院での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療介助技術に関する知識・技術を、子どもの発達に応じて、臨地で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。保育園実習に関しても、小児外来での実務経験をいかし、健康な子どもが外来受診する時のフィジカルアセスメント、心理状況のアセスメントなどを教授する。

**到達目標**

1. 知識
  - 1) 保育園の構造・設備・日課について理解できる。
  - 2) 保育園での保育活動を通して、子どもの成長発達を促す関わりが理解できる。
  - 3) 健康障害を持つ小児とその家族のヘルスケアニーズについて総合的に理解できる。
  - 4) 健康障害を持つ小児とその家族の看護上の問題に対し、問題解決プロセスを踏まえた解決方法を理解できる。
  - 5) 健康障害を持つ小児とその家族の成長発達段階、健康レベルに応じて個別に行われる看護援助の実践能力が修得できる。
  - 6) 子どものwell-beingと親のwell-beingについて考える能力が修得できる。
2. 態度
  - 1) 子どもの尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。
  - 2) 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。
  - 3) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。
  - 4) 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。
3. 技術
  - 1) 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。
  - 2) 対象のwell-beingを考慮し、看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。
  - 3) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関わりができる。

**準備学修**

準備として必要な内容は実習病院毎に異なるので、オリエンテーション時に指示する。疾患や臨床検査、子どもの成長発達、安全管理、輸液管理などの予習が必要。予習、復習に必要な時間は全体で20時間である。

**成績評価基準**

実習記録、実践内容などによって総合的に100点で評価する。自己評価、臨地実習指導者の評価をふまえ、担当教員で協議して評価を行う。

**課題等に対するフィードバック**

看護過程は個別指導、必要時面接を行う、看護ケアについてはカンファレンス等で、意見交換を行い振り返る。

**教科書・参考書など**

- 教科書：  
 奈良間美保他 「系統看護学講座 小児臨床看護概論 小児看護学1」医学書院  
 奈良間美保他 「系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2」医学書院
- 参考書：  
 中野綾美他 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学（1）小児の発達と看護」メディカ出版  
 中野綾美他 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学（2）小児看護技術」メディカ出版  
 中野綾美他 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学（3）小児の疾患と看護」メディカ出版  
 筒井真優美監修 「パーフェクト臨床実習ガイド小児看護」 照林社  
 山元恵子監修 「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ



## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

担当教員：飯野英親 青野広子

ユニット1 保育園の構造・設備・日課（生活の流れ）。

- ・保育園の特徴
- ・入園児の特徴
- ・受け持つ園児（クラス）の特徴
- ・子どもが保育園に通うことで生じる影響

ユニット2 保育園での保育活動を通して子どもの成長発達を促す関わり。

- ・保育士の活動（子どもへの指導）を見学し、保育活動の実際について説明することができる。
- ・保育士とともに保育活動に参加し、子どもに応じた日常生活援助を実施することができる。
- ・実施した日常生活援助を踏まえた保育体験のエピソードを記録用紙に記し、子どもの最適な生活（well-being）について検討することができる。
- ・健康な子どもの成長と発達段階に応じた日常生活行動、理解力、社会性等を説明できる。
- ・学内日のカンファレンスにおいて、保育園での保育活動を通して、子どもと家族の最適な生活（well-being）について検討することができる。
- ・最終カンファレンスにおいて、自己の学びの振り返りと他者の学びの共有を行うことができる。
- ・自身の保育活動を評価し、子どもとの関わりに関する自己課題を設定することができる。

ユニット3 実習病院・病棟の構造、設備、日勤業務の理解

実習病院、病棟の概要について説明できる。

- ・実習病院の特徴
- ・実習病棟の特徴
- ・病棟入院患児の疾患
- ・子どもが入院することによって生じる影響

ユニット4 小児科病棟における看護過程

- ・ゴードンの11の機能的健康パターンのデータベースに沿って、子どもと家族に関する情報を収集する。
- ・入院や疾病が子どもと家族に与える影響を、身体的・心理的・社会的側面に沿って情報収集を行い、アセスメントすることができる。
- ・受持っている子どもの発達段階や能力、個別性について述べることができる。
- ・疾病の経過と病状治療や検査結果をまとめ、アセスメントすることができる。
- ・収集した情報を整理・統合して、子どもと家族の全体像を描くことができる。
- ・アセスメントの結果から、看護上の問題を抽出することができる。
- ・看護問題の優先順位を整理し、計画を立案することができる。
- ・小児の成長発達段階に合わせた遊びや検温等を通してコミュニケーションを図り、関係性を発展させていくことができる。
- ・子どもや家族との信頼関係を深めることができるような行動を考えながら実践することができる。
- ・看護計画は日々の行動計画用紙に書き込むことができる。
- ・ケアを実践する場合は、事前に実習指導者に内容を報告・確認することができる。
- ・子どもの個別性に応じ、安全・安楽に考慮しながら援助することができる。
- ・看護ケアによる子どもへの効果・反応を確認することができる。
- ・実践した援助内容について、実習指導者・担当看護師・教員などと振り返り、その後の看護実践に活かすことができる。
- ・目標に照らし合わせて自己評価を行い、看護計画・看護目標の修正を行うことができる。
- ・観察・実施したすべてのケアについての報告は、端的に実習指導者、または担当看護師へ、時間を空けずに報告することができる。
- ・患児・家族に挨拶し、倫理的な配慮をしながら学習させてもらうことを伝えることができる。
- ・あらゆる臨床場面で、子どもの自尊心を尊重した関わりをすることができる。
- ・看護を行う際、子どもと家族の理解力に合わせて説明をすることができる。
- ・チーム医療を意識し、保育士、院内学級の教員等入院患児に関わる職種とそれぞれの役割について説明することができる。
- ・子どもに対して、口腔衛生管理的アセスメントが実施できる。
- ・口腔衛生管理上、何が課題なのかを説明できる。
- ・口腔衛生が管理できるように、子ども、または親に対して指導が必要な点について説明することができる。
- ・口腔衛生管理に関するケアが実施できる。
- ・実習期間の関わりを通して、子どもと家族にとっての、well-beingについて説明することができる。

《専門分野 母性看護学》

|  |                              |   |      |          |          |
|--|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名  | 母性看護学実習                      |   |      | 科目コード    | DN131690 |
| 評価責任者  | 田出 美紀 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 45回      |
| 授業方法   | 実習                           | 単位・必選   | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul> |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |                              |   |      |          |          |
| <p>本科目では、マタニティサイクルにある女性に対し、ウェルネスの視点で正常な妊娠・分娩・産褥期、そして新生児期の看護過程を展開させるとともに、母子一体のwell-being(最適な生活)で切れ目のない支援に必要な知識を習得する。</p> <p>妊婦または産婦・褥婦および新生児を受持ち、講義・演習で学んだ知識・技能(技術)を基本に、生理的・心理的・社会的変化を理解し、看護ケアが提供できることを目的とする。</p> <p>さらにマタニティサイクルにある女性の口腔ケアを起点とした全身の健康支援について考えを深めることを目的とする。</p> <p>本科目の担当教員は大学附属病院・国立病院機構・総合病院での助産師としての職務経験、開業助産師として産後ケアや育児支援、行政での母子保健事業経験を有している。実務経験を活かし、これまでの学修を統合した妊産褥婦および新生児とその家族への看護実践を教授する。</p>   |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>  |                              |   |      |          |          |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マタニティサイクルにある対象者の特徴を踏まえ援助的人間関係のかかわりを理解できる。</li> <li>2. マタニティサイクルにある対象者が正常な妊娠・分娩・産褥の経過をたどり、最適な生活(well-being)を送ることをめざした看護について展開できる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠・分娩・産褥期、新生児の対象者の身体的・心理的・社会的変化を説明できる。</li> <li>2) 対象の経過が正常化、正常から逸脱しているかの判断ができる。</li> <li>3) リストアップしたニーズや健康上の問題の解決に向けて具体的な援助計画が立案できる。</li> <li>4) 立案した援助計画をもとに援助が実践できる。</li> <li>5) 実践した看護の評価ができる。</li> </ol> </li> <li>3. 母子相互作用・父子相互作用を通して成立する親子関係を理解し、より良い関係が形成されるための援助が考えられる。</li> <li>4. 母子の健康を継続的にサポートするシステムやネットワーク機関の活動を理解し、対象が十分に活用できるような援助が考えられる。</li> <li>5. 母子の健全な育成に向けて母親・家族・地域社会が協調していくことの必要性を認識し、他領域の専門職者との連携と協働について考えられる。</li> <li>6. 生命の尊厳および母性看護観について考えを表現することができる。</li> </ol> |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>  |                              |   |      |          |          |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護論および母性看護論演習で学修した妊産褥婦および新生児に関わる正常値を調べ、振り返り学修しておく。</li> <li>2. 実習要項をよく読み、母性看護論演習の紙上事例の看護過程の展開を振り返る。加筆・修正の後、教員に提出する。再度指導を受けた内容については、追加学修して実習に臨む。</li> <li>3. 母性看護技術は、自己練習する。その後、教員の確認を得る。</li> </ol>  |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |                              |   |      |          |          |
| <p>4/5 以上の出席を持って評価対象とする。</p> <p>実習要項に記載する評価表に沿って評価する。</p>  |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |                              |   |      |          |          |
| <p>対象者への看護を、教員・指導者からの助言やカンファレンスを通して適宜振り返り、学びを深める。実習に関する記録物及び課題レポート等は、その都度解説・指導する。</p>  |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |                              |   |      |          |          |
| <p>教科書：中込さと子他 ナーシンググラフィカ 母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護 第3版 メディカ出版<br/>         小林康江他 ナーシンググラフィカ 母性看護学 母性看護の実践 第2版 メディカ出版<br/>         荒木奈緒他 ナーシンググラフィカ 母性看護学 母性看護技術 第6版 メディカ出版</p> <p>参考書：太田操 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版株式会社<br/>         医療情報科学研究所 病気がみえるvol.10 産科 第4版 メディックメディア<br/>         武谷雄二他 プリンシプル産科婦人科学2 産科編 第3版 メジカルビュー社</p>  |                              |   |      |          |          |

## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

2週間の実習期間を通して産婦人科病棟・産婦人科外来・NICU/GCUなどで対象者へ看護実践を行う。病棟においては、産褥期・新生児期にある母子を受け持ち、看護過程を展開する。展開した看護過程に基づき看護の実際および保健指導について学ぶ。外来実習では、妊娠期の看護の実際と保健指導について学ぶ。NICUでは、早産児・低出生体重児の看護を学ぶ。

#### 看護過程の展開

妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程 情報収集・整理

#### 看護過程の展開

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護過程 アセスメント・関連図作成

#### 看護過程の展開

妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程 看護計画立案・保健指導案作成

#### 看護過程の展開

妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程 看護計画の実施・保健指導案の実施

#### 産科外来実習

妊婦健診、2週間健診、1か月健診、助産師外来、乳房外来等における看護援助方法を見学し、母子の継続看護と多職者との地域連携を理解する。

#### 産科外来実習

妊娠期・産褥期・新生児期の保健指導・母親教室を見学し、対象者が適切なセルフケアを行うための保健指導の重要性と社会資源の活用を理解する。

#### 産科外来実習

妊娠期・産褥期・新生児期の診療処置・検査を見学し、正常・異常の経過を理解する  
レオポルド触診法、NST装着・所見判読、諸計測（子宮底の高さ、硬度）、新生児計測（体重・身長）、健康診査や内診の介助を実施・見学する。

#### 学内実習:文献学習

産科外来実習での学びから地域での退院後の産褥ケア、多職種連携について学びの整理、自己の課題を明らかにする。

#### NICU見学: ディベロップメンタルケア等の看護実践の見学

最終カンファレンス（課題解決型カンファレンス）に参加し、実習の学びと今後の課題についてディスカッションする。

#### 【担当教員】

田出美紀 中西真美子

《専門分野 成人・高齢者看護学》

|   |                              |   |      |          |          |
|---|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名   | 成人・高齢者看護学実習                  |   |      | 科目コード    | DN131745 |
| 評価責任者   | 内田 荘平 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 68回      |
| 授業方法  | 実習                           | 単位・必選   | 3・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   |                              | -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。<br>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。<br>-5 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。<br>-6 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |                              |   |      |          |          |
| 成人看護学、高齢者看護学、急性期・クリティカル看護論、周術期・回復期看護論、慢性期看護論、緩和ケア看護論を基盤とし、健康障害や機能障害を持ちながら生活する成人期の対象者を全人的に理解し、対象者およびその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための基本的な能力を身につける。<br>各期の対象者の形態的・機能的変化をふまえ、行動変化の特性を理解する。対象者のデータを専門的に解釈し、看護過程を実践する。急性期においては、生命力の消耗を最小限にして、生命維持・回復を促すための援助を学ぶ。回復期においては、社会復帰を促し、対象者とその家族にとってより良いwell-beingな状態を考慮した支援方法を学ぶ。また、看護倫理に基づき、保健医療チームの一員として、急性期および回復期看護機能と役割を理解する。その中で、周手術期の治療規制や生命維持・回復を促す口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。<br>この科目は、事前学習を実施する。事前学習を臨地実習にて活用する。<br><br>実務経験を生かした教育内容<br>大学付属病院や急性期病院、慢性期病院における臨床看護実践経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活 (well-being) を目指した看護の実践を指導する。 |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |                              |   |      |          |          |
| 1. 知識<br>1) 対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解でき、発達課題と疾患の関連について説明できる。<br>2) 対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。<br>3) 対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、看護問題を明確にすることができ、個別性に応じた看護目標が設定できる。<br>4) 看護目標を達成するため看護計画の立案、実践した看護を記録、評価・修正ができる。<br>5) 実践した看護を要約し、継続看護を考えることができる。<br>6) チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。<br>2. 態度<br>1) 対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。<br>2) 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。<br>3) グループダイナミクスを考慮し、看護チームの一員として責任ある行動をとることができる。<br>3. 技術<br>1) 看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。<br>2) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。   |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |                              |   |      |          |          |
| 1年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論、2年前期に学んだ高齢者看護学概論、急性期・クリティカル看護論、慢性期看護論、緩和ケア看護論、高齢者看護論、成人・高齢者看護学演習、の学習内容を復習しておく。健康支援看護論の看護過程を振り返る。eラーニングシステムに提示された事前学習課題を各病棟の特徴を基に疾患、治療、看護等を学習する。また紙面事例をもとに関連図を記載する。  |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |                              |   |      |          |          |
| 実習記録、実践内容などによって総合的に評価する。自己評価、臨地実習指導者の評価をふまえ、担当教員で協議して評価を行う。   |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |                              |   |      |          |          |
| 看護過程については、個別指導、必要時面接を行う、事例についてはカンファレンス等で、意見交換を行い振り返る。   |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |                              |   |      |          |          |
| (教科書)<br>1) 永田昭・石川ふみよ 監修 『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』 メディックメディア<br>2) 林直子・佐藤まゆみ 著 『看護学テキスト 成人看護学 急性期看護 概論・周術期看護』 改訂第3版 南江堂<br>3) 林直子・佐藤まゆみ 著 『看護学テキスト 成人看護学 急性期看護 救急看護・クリティカルケア』 改訂第3版 南江堂<br><br>(参考書)<br>1) 野崎真奈美・林尚子・佐藤まゆみ・鈴木久美 著 『看護学テキスト 成人看護学 成人看護技術』 改定第3版 南江堂<br>2) リンダJカハニート著 『看護診断ハンドブック』 第11版 医学書院   |                              |   |      |          |          |

## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

#### 【担当教員】

内田 荘平、末永陽子、秋永和之

#### 【学習内容】

ユニット1 健康問題をもつ成人期および老年期の対象者および家族の特徴を理解し、援助的関係を構築できる。

- ・対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。
- ・対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解できる。
- ・対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。
- ・対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。
- ・対象者および家族の倫理的配慮、個人情報の保護、プライバシーの保護ができる。

ユニット2健康問題をもつ成人期および老年期の対象者の問題を明確にし、看護の実践ができる。

- ・主観的および客観的な情報を系統的に収集し、アセスメントすることができる。
- ・対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。
- ・抽出された看護問題に対して個別性に応じたwell-beingを目指した看護目標が設定できる。
- ・看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。
- ・看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。
- ・対象のwell-beingを考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。
- ・実践した看護を記録し、評価・追加修正することができる。
- ・対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。
- ・実践した看護を要約し、継続看護を考えることができる。

ユニット3 成人期および老年期の対象者および家族に対する健康支援のために多職種と協調・協働ができる。

- ・保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。
- ・チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。
- ・看護ケアを提供するための看護師の役割について述べられる。
- ・グループダイナミックスを発揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。

ユニット4 実習を振り返り、自己の学びと課題を明確にすることができる。

- ・実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。
- ・実習における自己の看護観を述べるることができる。

《専門分野 成人・高齢者看護学》

|   |  |       |      |          |          |
|---|--|-------|------|----------|----------|
| 科目名   | 成人・高齢者看護学実習  |       |      | 科目コード    | DN131750 |
| 評価責任者   | 岩本 利恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください   |       |      | 授業回数     | 68回      |
| 授業方法  | 実習   | 単位・必選 | 3・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   | -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。<br>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。<br>-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。<br>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。<br>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。 |       |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |  |       |      |          |          |
| 慢性期・終末期にある対象者および家族を全人的に理解し、疾病や障害とともにwell-beingに生きることを支援する看護について修得することを目的とする。セルフケア能力、自己概念、自尊心の低下のある対象者および家族が、セルフマネジメントできるような看護実践方法と教育指導方法を修得する。<br>終末期の対象者およびの心理プロセス、死の受容過程を理解し、well-beingな最期の時を支える看護を学ぶ。<br>実習全体を通して、医療チーム、多職種連携を学び、チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。<br>この科目は、事前学習を実施する。事前学習を臨地実習にて活用する。<br><br>実務経験を生かした教育内容<br>公立病院や大学付属病院においての成人慢性期・終末期看護の経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活 (well-being) を目指した看護の実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のため患者教育、指導についても教育する。  |  |       |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |  |       |      |          |          |
| 1. 知識<br>1) 主観的および客観的な情報を系統的に収集し、全人的な側面、発達課題と疾患の関連についてもアセスメントできる。<br>2) 対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。<br>3) 看護計画を立案し、実践した看護を記録・評価・追加修正、また要約し、継続看護を考えることができる。<br>4) チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携、看護師の役割について述べられる。<br>2. 態度<br>1) 対象者の尊厳、人権の意味を理解し、意思の尊重、倫理的配慮、個人情報・プライバシーの保護をすることができる。<br>2) グループダイナミクスを發揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。<br>3) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。<br>4) 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にし、実習における自己の看護観を述べるることができる。<br>3. 技術<br>1) 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。<br>2) 対象のwell-beingを考慮し、看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。<br>3) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。 |  |       |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |  |       |      |          |          |
| 1年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論、2年前期に学んだ高齢者看護学概論、慢性期看護論、緩和ケア看護論、高齢者看護論、成人・高齢者看護論演習 の学習内容を復習しておく。成人・高齢者看護論演習 の看護過程を振り返る。事前学習課題を各病棟の特徴を基に疾患、治療、看護等を学習する。また紙面事例をもとに関連図を記載する。   |  |       |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |  |       |      |          |          |
| 実習記録、実践内容などによって総合的に評価する。自己評価、臨地実習指導者の評価をふまえ、担当教員で協議して評価を行う。   |  |       |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |  |       |      |          |          |
| 実習指導については、個別指導、必要時面接を行い、事例についてはカンファレンス等で、意見交換を行い振り返る。   |  |       |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |  |       |      |          |          |
| (教科書)<br>鈴木久美、旗持知恵子他 編 『成人看護学 慢性期看護学』南江堂<br>安酸史子、鈴木純恵他 編 『成人看護学 成人看護学概論』ナースング・グラフィカ メディカ出版<br>宇都宮明美、加茂徹郎他 編 『疾患と看護(1): 呼吸器』ナースング・グラフィカEX メディカ出版<br>岡田彩子、三浦英恵他 編 『疾患と看護(2): 循環器』ナースング・グラフィカEX メディカ出版<br>三原弘、土肥直樹他 編 『疾患と看護(3): 消化器』ナースング・グラフィカEX メディカ出版<br>薮隆文、矢野久子 編 『疾患と看護(4): 血液/アレルギー・膠原病/感染症』ナースング・グラフィカEX メディカ出版<br>永廣信治、田村綾子 編 『疾患と看護(5): 脳・神経』ナースング・グラフィカEX メディカ出版<br>永井由巳、東野 正明他 編 『疾患と看護(6): 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚』ナースング・グラフィカEX メディカ出版<br>繪本正恵、西山博之他 編 『疾患と看護(8): 腎/泌尿器/内分泌・代謝』ナースング・グラフィカEX メディカ出版  |  |       |      |          |          |

【担当教員】

岩本利恵、有永麻里、吉田あや

【学習内容】

ユニット1 健康問題をもつ成人期および老年期の対象者および家族の特徴を理解し、援助的関係を構築できる。

- 1)対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。
- 2)対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解できる。
- 3)対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。
- 4)対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。
- 5)対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。

ユニット2健康問題をもつ成人期および老年期の対象者の問題を明確にし、看護の実践ができる。

- 1)主観的および客観的な情報を系統的に収集し、アセスメントすることができる。
- 2)対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。
- 3)抽出された看護問題に対して個別性に応じたwell-beingを目指した看護目標を設定できる。
- 4)看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。
- 5)看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。
- 6)対象のwell-beingを考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。
- 7)実践した看護を記録し、評価・追加修正することができる。
- 8)対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。
- 9)実践した看護を要約し、継続看護を考案することができる。

ユニット3 成人期および老年期の対象者および家族に対する健康支援のために多職種と協調・協働ができる。

- 1)保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。
- 2)チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。
- 3)看護ケアを提供するための看護師の役割について述べられる。
- 4)グループダイナミクスを發揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。

ユニット4 実習を振り返り、自己の学びと課題を明確にすることができる。

- 1)実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。
- 2)実習における自己の看護観を述べるることができる。

《専門分野 成人・高齢者看護学》

|   |                              |   |      |          |          |
|---|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名   | 成人・高齢者看護学実習                  |   |      | 科目コード    | DN131755 |
| 評価責任者   | 宮園 真美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 45回      |
| 授業方法  | 実習                           | 単位・必選   | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力   |                              | -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。 |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>  |                              |   |      |          |          |
| 成人看護学、高齢者看護学、急性期・クリティカル看護論、周術期・回復期看護論、慢性期看護論、緩和ケア看護論を基盤とし、疾病と障害を持ちながら生活する成人期、老年期にある対象者を全人的に理解し、対象者および家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための看護を修得する。<br>対象者の健康段階、健康障害、加齢による身体諸機能低下、生活史を踏まえ、高齢者および家族の健康上の問題を理解し、退院後の最適な生活 (well-being) を見据えた看護実践方法を学ぶ。<br>高齢者とコミュニケーションを図り、人間関係を構築し、病気や入院治療が高齢者に与える影響を理解するとともに入院治療を受ける高齢者に対する看護過程の展開方法を理解する。その中で、高齢者の健康問題に応じた口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。また、医療チームにおける他職種との協調・協働について理解する。<br>実務経験を生かした教育内容<br>病院勤務における様々な疾患を持つ成人および老年期にある対象への看護経験を活かし、対象の最適な生活 (well-being) を目指した看護実践を指導する。 |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>   |                              |   |      |          |          |
| 1. 知識<br>1) 対象が活用できる社会資源や保健医療福祉制度について説明できる。<br>2) 対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、高齢者に生じている健康問題を説明できる。<br>3) 対象および家族を取り巻く他職種との協調・協働方法を説明できる。<br>2. 態度<br>1) 対象とのコミュニケーション能力を身につける。<br>2) 対象との援助的人間関係を構築する上で看護者として必要な態度を修得する。<br>3) 看護の役割についての理解を深め、自己の学習課題を明確にする。<br>3. 技術<br>1) 対象者及び家族の健康支援に必要な看護過程を展開する。<br>2) 多職種チームの一員として行動できる。<br>3) 対象者とのコミュニケーションができる。<br>4) 対象者を尊重する態度で接する。<br>5) 対象者の健康問題を解決するための看護技術を一部実践する。  |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>   |                              |   |      |          |          |
| 提示された予習の項目、受持ち患者の疾患や健康状態に関連する事前学習を十分に行う。  |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>   |                              |   |      |          |          |
| 提示された評価表に沿って総合100点で評価する。  |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>   |                              |   |      |          |          |
| 事前課題、課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。   |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>  |                              |   |      |          |          |
| (教科書)<br>1) 北川公子他『系統看護学講座 専門分野 老年看護 第9版』医学書院<br>2) 佐々木英忠他『系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 第5版』医学書院<br>(参考書)<br>1) 山田律子他『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版』医学書院<br>2) 泉キヨ子他『看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 第4版』メヂカルフレンド社<br>3) 亀井智子『根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版』医学書院  |                              |   |      |          |          |



## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

#### 【担当教員】

宮園真美、町島希美絵、小島美里

#### 【学習内容】

1. 成人期から老年期に関わる保健医療福祉制度について理解する。
  - 1) 高齢者保健医療制度の概要について説明できる
  - 2) 医療制度における医療機関が求められる役割を説明できる。
  - 3) 医療・介護サービスの保障の強化目的を説明できる。
  - 4) 介護保険法の制定とねらいを説明できる。
2. 成人期から老年期にある対象との援助的人間関係を構築する上で看護者として必要な態度を修得する。
  - 1) 生きてきた過程、多様な価値観、家族・社会的役割などを尊重した態度で接することができる。
  - 2) 対象および家族が抱く思いについて説明できる。
  - 3) 対象者の潜在的・顕在的な能力に目を向けて、肯定的な態度で接することができる。
  - 4) 対象者の自己決定を尊重できるような態度をとることの必要性を説明できる。
  - 5) 対象者および家族と良好なコミュニケーションが取れる。
  - 6) プライバシー保護をはじめとした倫理的配慮ができる。
  - 7) 看護チームの一員として適切に報告・連絡を行うことができる。
3. 成人期から老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、高齢者が生じやすい健康問題を明らかにする。
  - 1) 加齢によって生じている諸機能の変化について説明できる。
  - 2) 加齢による身体的・精神的・社会的特徴を把握するために必要な情報を説明、記述できる。
  - 3) これまでの生きてきた過程、生活習慣、家族背景などを説明できる。
  - 4) 加齢に伴い生じやすい健康問題を明確化できる。
  - 5) 入院、治療などによって生じる身体的・精神的・社会的特徴に与える影響を説明できる。
4. 退院後の生活を見通した対象者及び家族の健康支援・生活支援が可能な展開方法を修得する。
  - 1) 対象者を、身体的・精神的・社会的(霊的)側面から総合的にアセスメントできる。
  - 2) 加齢に伴う変化や個別性を考え最適な生活(well-being)を目指した看護目標を設定できる。
  - 3) 対象を総合的に理解するために、評価スケール等を活用して分析できる。
  - 4) 対象の老化の程度や機能の低下などに考慮した安全・安楽な援助を立案し、実施できる。
  - 5) 対象者の生活機能を整えるために必要な支援方法を選択し、援助を実施できる。
  - 6) 実践した看護の評価・考察ができる。
  - 7) 対象者の健康問題に応じた口腔を起点とした全身の健康支援ができる。
    - (1) 口腔の器質的及び機能的変化が全身の健康へ及ぼす影響をアセスメントできる。
    - (2) 摂食・嚥下機能を維持・向上させるための援助方法を説明できる。
    - (3) 対象者のニーズに沿った口腔の健康に関する看護計画立案と実践ができる。
    - (4) 実践した口腔の健康支援について評価・考察ができる。
5. 対象者および家族を取り巻く他職種との協調・協働方法を理解する。
  - 1) 退院後の生活を送る上での問題点を明確化できる。
  - 2) 生活機能を維持するために必要な社会資源について説明できる。
  - 3) 地域生活を守るために必要な他職種の役割を述べられる。
  - 4) 健康生活を支援するために必要な看護専門職の役割について説明できる。
6. 成人期から老年期にある対象への看護の役割についての理解を深め、自己の学習課題を明確にする。1) 主体的、積極的に実習に臨むことができる。
  - 1) 自己の考えをカンファレンスなどで明確に発言できる。
  - 2) 自己の高齢者観と高齢者看護について説明できる。
  - 3) 対象者に対する自己の看護を振り返り、学習課題を明確化できる。
  - 4) 口腔の健康支援における自己の課題について明確化できる。

《専門分野 成人・高齢者看護学》

|  |                              |   |      |          |          |
|--|------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名  | 高齢者生活支援看護実習                  |   |      | 科目コード    | DN131760 |
| 評価責任者  | 宮園 真美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 45回      |
| 授業方法   | 実習                           | 単位・必選   | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  |                              | -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。<br>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。<br>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。 |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |                              |   |      |          |          |
| 3年生の後期にあるこの科目では、高齢者看護論演習を受けて、高齢者療養支援看護学実習とともに展開される。高齢者のもつ潜在的・顕在的な能力に着目して、高齢者および家族の最適な生活（well-being）を目指した健康の保持・増進への看護実践方法を学ぶ。地域生活を送る高齢者及び家族の健康支援、施設に入所して生活する高齢者および家族の健康支援をそれぞれ体験し、高齢者の生きがいやQOL向上のための援助を理解する。その中で、高齢者の生活行動障害に応じた口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。<br><br>実務経験を生かした教育内容<br>病院勤務における様々な疾患を持つ高齢者への看護経験を活かし、高齢者の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。            |                              |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>  |                              |   |      |          |          |
| 1. 知識<br>1) 地域で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について説明できる。<br>2) 地域で生活する高齢者および家族の健康支援・生活支援方法について説明できる。<br>3) 施設で生活する高齢者に対する健康支援・生活支援方法を理解する。<br>2. 態度<br>1) 高齢者とのコミュニケーション能力を身につける。<br>2) 高齢者を尊重する態度で接する姿勢を持つ。<br>3. 技術<br>1) 保健福祉施設で生活を送る高齢者が抱える健康問題や生活行動障害について理解し一部を実践できる。<br>2) 施設で生活する高齢者に対する健康支援・生活支援方法を理解し発表できる。<br>3) 高齢者とのコミュニケーションができる。<br>4) 高齢者を尊重する態度で接する。 |                              |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>  |                              |   |      |          |          |
| 提示された予習の項目、受持ち入所者の疾患や状態の事前学習   |                              |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |                              |   |      |          |          |
| 提示された評価表に沿って総合100点で評価する。   |                              |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |                              |   |      |          |          |
| 事前課題、課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。  |                              |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |                              |   |      |          |          |
| (教科書)<br>1) 北川公子他『系統看護学講座 専門分野 老年看護 第9版』医学書院<br>2) 佐々木英忠他『系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 第5版』医学書院<br>(参考書)<br>1) 山田律子他『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版』医学書院<br>2) 泉キヨ子他『看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 第4版』メヂカルフレンド社<br>3) 亀井智子『根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版』医学書院   |                              |   |      |          |          |

## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

#### 【担当教員】

宮園真美、山中富

#### 【学習内容】

1. 地域で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について
  - 1) 保健医療福祉制度における、通所施設の役割
  - 2) 利用者が通所施設を活用する目的や理由
  - 3) 地域住民が主体で行うボランティア活動の目的と内容
  - 4) ボランティア活動が高齢者に与える影響
2. 地域で生活を送る高齢者および家族が抱える健康問題や生活行動障害
  - 1) 高齢者とコミュニケーションを図り、地域生活について情報収集する
  - 2) 高齢者とコミュニケーションを図り、健康問題について情報収集する
  - 3) 高齢者を尊重した態度で接する
3. 地域で生活する高齢者および家族の健康支援・生活支援方法について
  - 1) 通所サービスで行われている活動とその効果
  - 2) 地域で生活する高齢者および家族の健康の維持・増進に向けた支援方法
  - 3) 地域で生活する高齢者に対する集団指導方法
  - 4) 健康的な地域生活を支援する看護専門職の役割
  - 5) 地域で生活する高齢者の生活支援・健康支援に必要な他職種との協調・協働
  - 6) 通所施設が企画するイベントに参加し、地域住民が主体となった高齢者への生きがい作りや仲間作りの必要性を考える
4. 保健福祉施設で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について
  - 1) 保健医療福祉制度における、施設の役割
  - 2) 入所者が施設を活用する目的や理由
  - 3) 入所者が利用しているサービスの種類
5. 保健福祉施設で生活を送る高齢者が抱える健康問題や生活行動障害について
  - 1) 高齢者とコミュニケーションを図り、援助関係を構築する
  - 2) 高齢者を尊重した態度
  - 3) 高齢者の潜在的・顕在的な能力
  - 4) 加齢や健康障害に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化、ライフヒストリー
6. 施設で生活する高齢者に対する健康支援・生活支援方法
  - 1) 加齢に伴う変化や個性を考え最適な生活（well-being）を目指した看護
  - 2) 保健福祉施設における看護師の役割
  - 3) 高齢者を総合的に理解するための評価スケール等の活用と分析
  - 4) 高齢者の老化の程度や機能低下などに考慮した安全・安楽な援助計画立案と実施
  - 5) 高齢者に対する自己の看護を振り返る。学習課題を明確にする
  - 6) 高齢者の口腔の状態に応じた健康支援・生活支援方法
    - (1) 高齢者の摂食・嚥下機能を維持・向上させるための援助方法
    - (2) 口腔の健康支援の評価方法
    - (3) 口腔の健康支援における自己の課題
7. 医師、歯科医師、介護福祉士、歯科衛生士といった他職種との協調・協働方法
  - 1) 対象を取り巻く他の専門職者の協調・協働の実際
  - 2) 施設で使用されているケアプラン等の他職種間での共有、活用
  - 3) 各職種の実践場面、ケースカンファレンスなど情報共有の場の体験
  - 4) 他職種の実習生との合同カンファレンス
  - 5) 口腔の健康支援を通しての高齢者の全身的な健康状態及びQOLを高める援助について
8. 地域や施設などで生活する高齢者の健康の維持・増進に向けた余暇活動支援や健康支援活動について
  - 1) 高齢者の生きがいや楽しみにつながるレクリエーション活動及び口腔機能向上に関連する援助活動計画
  - 2) 教員、指導者の助言の下、具体的な看護援助実施
  - 3) 高齢者の反応を確認しながら、援助の評価
  - 4) レクリエーション活動が高齢者の身体的・精神的・社会的側面に与える影響
  - 5) 高齢者の健康の維持・増進に向けた余暇活動支援や健康支援活動について意見交換

《専門分野 精神看護学》

|  |                               |   |      |          |          |
|--|-------------------------------|---|------|----------|----------|
| 科目名  | 精神看護学実習                       |   |      | 科目コード    | DN131780 |
| 評価責任者  | 中島 富有子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください |   |      | 授業回数     | 45回      |
| 授業方法   | 実習                            | 単位・必選   | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  |                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul> |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |                               |   |      |          |          |
| <p>精神障害者の最適な生活（well-being）に向け、入院から地域生活における継続した精神看護の修得を目的とする。実習の2週間は、「精神科病棟での実習」1週間、「就労継続支援B型事業所での実習」1週間とする。「精神科病棟での実習」として精神的健康を回復するための看護を学び、「就労継続支援B型事業所での実習」として精神的健康を維持するための看護を学ぶ。「精神科病棟での実習」では、入院治療を受ける精神障害者1名を受け持ち看護過程の展開を行う。「就労継続支援B型事業所での実習」では、社会生活を送り就労を目指す精神障害者の看護を実践する。実習の中で、精神障害者の最適な生活（well-being）に向けた精神看護を実践する。「精神科病棟での実習」と「就労継続支援B型事業所での実習」を振り返り、入院から地域生活までの継続した精神看護について考察する。精神障害者を支える法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働する方法を学ぶ。</p> <p>実務経験を生かした教育内容<br/>         教員が持つ公立病院等の精神科病棟、精神科デイケアにおける精神看護の実務経験を活かし、さまざまな精神の健康レベルにある精神障害者の最適な生活（well-being）に向け、精神的健康を保持・増進・回復する看護を教授する。さらに、実務経験を基に、他職種と協調・協働する方法、入院から地域生活までの継続した精神看護について教授していく。</p>  |                               |   |      |          |          |
| <b>到達目標</b>  |                               |   |      |          |          |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1．全体像の理解 知識             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害者の全体像を病態関連図およびICFの関連図で説明できる。</li> <li>2) 精神障害者の健康上の問題について、原因および誘因、成り行き、看護について説明できる。</li> <li>3) 精神障害者を支える法律や社会資源の活用方法について説明できる。</li> <li>4) 精神障害者を支えるための他職種との協調・協働する方法が説明できる。</li> </ol> </li> <li>2．態度形成 態度             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護を提供するために必要な倫理観を養う。</li> <li>2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度を養う。</li> </ol> </li> <li>3．技能             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害者に応じたコミュニケーション方法が分かる。</li> <li>2) 科学的根拠に基づいた「精神障害者に対する看護過程方法」が修得できる。</li> <li>3) 精神障害者の最適な生活（well-being）に向け、精神看護を実践する方法が分かる。</li> <li>4) 社会生活を送り就労を目指す精神障害者の看護実践方法が分かる。</li> </ol> </li> </ol> |                               |   |      |          |          |
| <b>準備学修</b>  |                               |   |      |          |          |
| 精神看護学概論、精神看護論、精神看護論演習の授業内容を復習しておく。精神看護実践に必要な事前学習をレポートにまとめておく。  |                               |   |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |                               |   |      |          |          |
| 実習評価表に基づき実習目標の達成度を評価し、実習担当教員が実習指導者と協議し、総合的に評価する。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。   |                               |   |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |                               |   |      |          |          |
| <p>日々の実習の中で、実習指導者および実習担当教員から助言を受け学習を進めるようにする。</p> <p>実習要項の実習進度をもとに日々の実習計画を立案する。日々、学びと課題を明らかにしながら、翌日の課題は、前日の実習時間内に見通しをつけられるよう、積極的に取り組み指導を受ける。</p>   |                               |   |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |                               |   |      |          |          |
| <p>（教科書）</p> <p>武井麻子 他（著）『系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学(1)』医学書院<br/>         武井麻子 他（著）『系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学(2)』医学書院</p> <p>（参考書）</p> <p>萱間真美 他（著）『精神看護学 心・からだ・かかわりのプラクティス』南江堂<br/>         出口禎子 他（著）『ナース・グラフィカ 精神看護学 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版<br/>         白石弘巳 他（著）『ナース・グラフィカ 精神看護学 精神障害と看護の実践』メディカ出版</p>   |                               |   |      |          |          |

**【担当教員】**

中島富有子、原やよい、黒岩千翔

**【学習内容】**

## 1. 精神科病棟での実習（1週間）

- 1) 入院治療を受ける精神障害者の看護過程を展開する。
  - (1) 受持った精神障害者について、健康に関する情報を収集する。
  - (2) 情報を身体的な問題、精神的な問題、生活上の問題として整理する。
  - (3) 整理した問題のアセスメントを行う。
  - (4) 社会資源の活用状況をアセスメントする。
  - (5) 病態関連図を書き、患者の全体像をつかむ。
  - (6) 健康上の問題を明らかにして、優先度を考える。
  - (7) 看護目標を設定する。
  - (8) 目標到達に向けた科学的根拠に基づく看護計画を立案する。
  - (9) 看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施する。
  - (10) 精神的健康回復に向けた看護の評価を行う。
- 2) プロセスレコードを通し、コミュニケーションの傾向を抽出及び自己洞察を行う。

## 2. 就労継続支援B型事業所での実習（1週間）

- 1) 地域生活を送る精神障害者の看護を実践する。
  - (1) 精神障害者について、健康に関する情報を収集する。
  - (2) 情報を身体的な問題、精神的な問題、生活上の問題として整理する。
  - (3) 整理した問題のアセスメントを行う。
  - (4) 社会資源の活用状況をアセスメントする。
  - (5) ICFの関連図を書き、生活の全体像をつかむ。
  - (6) 患者の状態を観察しながら、就労支援を含む看護を実施する。
  - (7) 精神的健康を維持し社会生活が送れる看護の評価を行う。
- 2) 精神的健康回復のためのコミュニケーション方法について学ぶ。

## 3. 看護専門職者の責務及び態度

- 1) 精神看護を提供するために必要な倫理観について考える。
- 2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度について考える。

《専門分野 地域在宅看護論》

|  |   |       |      |          |          |
|--|---|-------|------|----------|----------|
| 科目名  | 地域在宅看護論実習   |       |      | 科目コード    | DN131805 |
| 評価責任者  | 宮坂 啓子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください  |       |      | 授業回数     | 45回      |
| 授業方法   | 実習  | 単位・必選 | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 3年・後期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力  | <ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul> |       |      |          |          |
| <b>授業の目的とねらい</b>   |   |       |      |          |          |
| <p>3年生の後期にあるこの科目では、地域および在宅看護において看護者が対象者や家族に行う最適な生活（well-being）に向けた看護を見学し、訪問看護師や地域住民の健康を維持する活動を行っている指導のもとに訪問看護の実践を行う。訪問看護では、疾病や障害を持ち地域生活を送る療養者および家族とコミュニケーションを図り、看護に必要な身体的・精神的・社会的な情報を収集し、看護過程を展開しその技術を理解する。また、生活の質を高めるための在宅における口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。また、社会資源の利用、入院から退院後の在宅療養への継続した看護や他職種の協調・協働の実際を学ぶとともに、地域・在宅で療養する対象者及び家族に対する看護を学ぶことを目指す。訪問看護師・看護小規模多機能型居宅介護（看多機）スタッフと動き、看護計画の立案・実施・振り返りを通して訪問看護ステーションおよび看多機の役割を理解する。</p> <p>実務経験を生かした教育内容<br/>         教員の地域看護、訪問看護、病院における様々な対象への看護経験を活かし、対象の最適な生活（well-being）を目指した看護実践から、地域で生活する人に必要な役割について理解できる。</p> |   |       |      |          |          |
| <b>到達目標</b>  |   |       |      |          |          |
| <p>1. 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養者や家族の生活を支える社会資源、在宅ケアシステムとその中での看護職の役割・機能を理解する。</li> <li>2) 在宅看護に必要な看護技術およびその特徴について理解できる。</li> </ul> <p>2. 態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅看護における理解を深め、自己の学習課題を明確にする。</li> </ul> <p>3. 技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 療養者および家族との援助的人間関係を構築する上で看護職として必要な態度を修得する。</li> <li>2) 療養者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、療養者および家族を理解する方法を習得する。</li> <li>3) 療養者および家族のwell-beingを目指した看護過程を展開し、在宅で看護を実践する方法を修得する</li> </ul>  |   |       |      |          |          |
| <b>準備学修</b>  |   |       |      |          |          |
| 提示された予習の項目、受持ち療養者の疾患や病態の事前学習   |   |       |      |          |          |
| <b>成績評価基準</b>  |   |       |      |          |          |
| 提示された評価表に沿って総合100点で評価する。   |   |       |      |          |          |
| <b>課題等に対するフィードバック</b>  |   |       |      |          |          |
| 事前課題・課題レポートなどは実習中に指導し、評価していく。  |   |       |      |          |          |
| <b>教科書・参考書など</b>   |   |       |      |          |          |
| <p>（教科書）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院</li> <li>2) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実際 医学書院</li> <li>3) 新体系 看護学全書 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護論 メジカルフレンド</li> </ul> <p>（参考書）<br/>         適宜指示する。</p>  |   |       |      |          |          |

## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

#### 【担当教員】

宮園真美、宮坂啓子

#### 【学習内容】

1. 訪問看護ステーションおよび多職種連携に関する理解：  
(在宅療養者や家族の生活を支える社会資源、在宅ケアシステムとその中での看護職の役割と機能)
  - 1) 在宅療養者や家族を支える社会資源や諸制度・介護保険を理解できる。
  - 2) 在宅看護と訪問看護ステーションの役割と多職種連携についての理解し、様々な社会資源の実態を把握と活用の必要性について理解できる。
2. 援助的人間関係：療養者・家族との関係性を構築する上での必要な態度
  - 1) 療養者および家族の置かれている状況、多様な価値観、家族関係などを尊重した態度、療養者および家族が抱く思いについて理解できる。
  - 2) 療養者および家族が持つ力が最大限に発揮できる看護、自己決定を尊重、看護チームの一員として適切に報告・連絡・相談、倫理的配慮ができる。
3. 対象理解：地域・在宅療養者の身体的・精神的・社会的特徴の理解
  - 1) 地域在住者および療養者を全人的に把握について理解できる。
  - 2) 療養者・家族の健康上の課題と生活への影響について把握し、健康上のニーズの抽出、価値観の多様性と看護の課題について説明できる。
  - 3) 実際の家族機能の力およびその介護力について理解できる。
4. well-beingを目指した看護過程：療養者および家族の看護過程を展開・実践
  - 1) 療養者を身体的・精神的・社会的側面を総合的にアセスメントできる。
  - 2) 療養者や家族が望む生活を支えながら、課題を解決する目標の設定
  - 3) 対象者の在宅療養継続やQOLに即した看護計画の立案、実践できる。
  - 4) 実践した看護計画について客観的に評価し、看護計画の展開ができる。
5. 在宅における看護技術：在宅看護に必要な看護技術およびその特徴について
  - 1) 在宅におけるケア方法の工夫および在宅看護で行われている看護技術・実践方法について理解できる。
  - 2) 難病、ターミナル期、認知症など療養者個別の看護実践ができる。
  - 3) 口腔を起点とした全身の健康支援ができる。
6. 自己の学習課題：在宅看護の理解を深め、自己の学習課題を明確化について
  - 1) 積極的に実習に臨み自己の考えをカンファレンスなどで明確に発言できる
  - 2) 対象の生活領域に訪問する看護に携わった自己を振り返り、学習課題を明確化できる。
  - 3) これまでの学びを基に自己の看護観を深めることができる。